

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2017年 2月

「この日を神と共に」 「印する働き」 「聖所—罪人に示されたもの」 「フルーツグラノーラ」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「教会 (I)」

4

聖書の教え

朝のマナ

「この日を神と共に」

10

This Day with God

現代の真理

「聖所—罪人に示されたもの」

39

清めの特別な働き

力を得るための食事

「フルーツグラノーラ」

46

お話コーナー

「試み」

48

イエスの物語

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：http://www.4angels.jp
メール：support@4angels.jp

発行日 2017 年 1 月 31 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Design Pics on front cover;
Sermon view on pages 8, 40, Joe Maniscalco on back
cover.

Printed in Japan

「信じます。神がこれを約束されたからです」

あなたに必要なものは平和です。つまり天のゆるしと平和と愛を心にいただくことです。それは金で買うことも知識で達することも、また知恵で手に入れることもできません。自分の力では絶対に手に入れることは望めないのです。けれども神はこれを「金を出さずに、ただで……買い求」むべき賜物として与えてくださるのですから（イザヤ書 55:1）、ただ手をのばしてそれをつかみさえすれば自分のものとなるのです。主は、「たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ」（イザヤ書 1:18）、「わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に授け」仰せになります（エゼキエル書 36:26）。

あなたは自分の罪を告白して、心よりこれを捨て去り、神に自らをささげようと決心しました。ですから今、神のもとに行き罪を洗い去って新しい心を与えて下さるよう求めなさい。

そして、神がお約束なさったのですから、そうしてくださいと信じなさい。……

イエスが病人をおいやしになったという簡単な聖書の記録から、わたしたちは罪のゆるしをえるためには、どのようにして彼を信じればよいかを幾分知ることができます。ペテスダの中風患者のことを考えてみましょう。哀れな病人は、三十八年もからだの自由を失っていたのです。しかしイエスは、「起きて、あなたの床を取りあげ、そして歩きなさい」と仰せになりました。

この病人は、「主よ、もし私をいやしてくださいならばみ言葉に従います。」とも言えたでしょう。しかし彼は、キリストのみ言葉を信じ、自分がいやされたと思っていてすぐに立って歩こうとしました。歩こうとしたときに実際に歩くことができたのです。彼はキリストのみ言葉に頼って行動しましたので、神は彼に力を与え、彼はすっかりいやされたのです。

罪人であるわたしたちも同じです。過去の罪をあがなうことも、自分の心を変えることも自分自身をきよくすることもできません。しかし神は、こうしたことをすべてキリストを通してしてくださいと約束されました。あなたはまずそのみ約束を信じ、罪を告白し、自らを神にささげて、神に仕えようと決心しなければなりません。これを実行しさえすれば必ず神はそのみ約束を果してくださいるのであります。神のみ約束を疑わず、ゆるされ、きよめられたと信じさえすれば、神はそれを事実としてくださるのです。中風の病人がいやされたことを信じたとき、キリストが歩く力をお与えになったと同じようにあなたはいやされるのです。信じるごとくになるのです。

いやされたと感じるまで待つてはなりません。そして「信じます。いやされています。私がそう感じるからではなく、神がこれを約束したもうたからです」と言いなさい。（キリストへの道 63, 64）

20 章 神の教会 (I)

各時代において、世のはじめから、神の教会は忠実な魂で構成されてきました (創世記 4:26; ペテロ第一 2:9; 使徒行伝 2:47; コリント第一 1:2)。これらの忠実な大使たち、すなわちご自分の代弁者たちを通してこのお方は男女の子らに語り、彼らに「多種多様な知恵」を明らかにしてられました (エゼキエル 33:7-9; 使徒行伝 20:28)。目に見える組織された教会を通して、福音はすべての人に光と真理をもたらし、彼らに神とこのお方の栄光の御国へ戻る道を示しています (コリント第二 5:18-20; 使徒行伝 16:17)。

「靈的暗黒の時代に神の教会は、山の上にある町のようなものであった。各時代にわたり、各世代を通じて天の高潔な教えは教会の中で明らかになってきた」 (患難から栄光へ上巻 4)。

基礎

神は真理であります。キリストは真理であります。このお方の聖霊は真理であります。このお方の福音は真理の言葉です。このお方の律法は真理です (申命記 32:4; ヨハネ 14:6; 16:13; ヨハネ第一 5:6; エペソ 1:13; 詩篇 119:142)。ですから、真理の言葉を通して生まれたすべての人は、一つの組織された地位にあって結合し、一つの真理の教会、すなわち「真理の柱、真理の基礎」を構成します (テモテ第一 3:15)。

ご自分に言及して、キリストは「この岩の上にわたしの教会を建てよう」と言われました。この岩はキリストご自身です (サムエル記上 2:2; イザヤ 44:8, 傍注; コリント第一 3:10, 11; マタイ 7: 24, 25; 24:35; ペテロ第一 1:25)。

「わたしたちはキリストのみことばに従うことによってキリストの上に建てるのである」 (祝福の山 186)。

「神のみことばは、この世界の中で唯一のゆるがないものである。これが確かな基である」 (祝福の山 185)。

地上における神の王国は二つの基本的な原則に基づいて建てられています。すなわち、神への愛とわたしたちの隣人への愛です。これらの原則は神のみ言葉の中で明瞭に述べられています（マタイ 22:36-40; ルカ 10:25-28; マタイ 7:12）。

信徒たちがこの基礎の上にとどまっている間は、黄泉の力は彼らに打ち勝つことができません。なぜなら、キリストのご臨在が彼らと共にあるからです。しかし真理の基礎から離れる人々はキリストのご臨在を主張することはできません。このようにキリストの教会は真の信徒たちの継承なのです（テモテ第二 2:19; マタイ 16:16-18; エレミヤ 11:4; ヨハネ 8:31; ルカ 12:32; ローマ 11:1-6; 9:27; 歴代志下 15:2）。

『すでにすえられている土台以外のものをすえることは、だれにもできない。そして、この土台はイエス・キリストである』（コリント第一 3:11）。「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう」とキリストは言われた（マタイ 16:18）。神と全天使たちの前で、また目に見えないよみの軍勢の前で、キリストは生ける岩の上にご自分の教会を建てられた。その岩はキリストご自身一われわれのために裂かれ傷つけられたキリストご自身のからだであった。この土台の上に建てられた教会に、よみの門は打ち勝つことができない」（各時代の希望中巻 181）。

目的

「教会は人類救済のために神がお定めになった機関である。教会は奉仕するために組織された。その使命は世界に福音を伝えることである。教会を通して神の満ちあふれる豊かさを世界に反映させることが、神のはじめからのご計画であった。暗やみから驚くべき光に招き入れられた教会員たちは、神の栄光をあらわさなければならない。教会はキリストの恵みに富んだ宝庫であり、教会を通して神の愛がついには『天上にあるもろもろの支配や権威』に対してさえも十分明らかに示されるのである』（エペソ 3:10）」（患難から栄光へ上巻 1）。

「キリストは教会に神聖な責任をお与えになった。教会員はそれぞれ、神がその恵みの富と、計り知れないキリストの富とを世にお伝えになる器とならねばならない。世の人々に、キリストのみたまと品性をあらわす器ほど、キリストが望んでおられるものはない。人間を通して救い主の愛があらわされることほど、世が必要としているものはない。全天は、神がキリスト教の力をあらわすことがおできに

なる男女を待っている。

教会は、真理を宣べ伝えるための神の機関であって、特別の働きをする力を神から与えられている。もし教会が神に忠実であり、神のすべての戒めに従うなら、教会には神の計り知れない恩恵が内住するであろう。教会が真実に神への忠誠をつくし、イスラエルの神、主をあがめるとき、どんな勢力もこれに対抗することはできない」(同上下巻 308)。

「わたしたちは他の人々が勝利するのを助けることによって、小羊の血とわたしたちの証の言葉とによって勝利者となるのである」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 974)。

「自分たちを幸せにするためには、他の人々を幸せにするために生きなければならない」(教会への証 3 巻 251)。

霊的な建物

キリストは体、すなわち教会の頭です(コロサイ 1:18)。彼はまた霊的な宮の隅のかしら石です(エペソ 2:20)。信仰によってキリストを自分の救い主として受け入れ、悔い改めと改心を示すすべての人々は、あらゆる真理へと導きいれられます(マルコ 16:15, 16; 使徒行伝 2:38; ヨハネ 16:13)。聖霊は彼らを信仰の告白とバプテスマへと導きいれ、キリストの体なる教会へ「加え」られます(使徒行伝 2:47)。真理の永遠の基礎の上に築き上げられ、彼らは聖なる宮へと成長します(コリント第一 12:27; エペソ 2:21, 22; ペテロ第一 2:5; コリント第一 3:9, 12, 16, 17)。

教会員

「キリストにつながることはキリストの教会につながることになる」(教育 317)。

「信じる者はすべて一つの教会に集められるのである」(各時代の希望下巻 367)。

「教会はこのお方の御目に非常に尊い。それはこのお方の宝石の入った箱であり、このお方の群れをかこむ囲いであって、このお方はそれがしみもしわもそのたぐいのものが一切ないのを見ることを切望しておられる」(教会への証 6 巻 261)。

「神の御霊は罪人に真理を納得させ、彼らを教会の腕の中におかれる」(同上

4 卷 69)。

「わたしたちはみな目に見える教会のメンバーとして、また主のぶどう畑の働き人として個々の責任を感じるべきである」(同上 4 卷 16)。

「教会のメンバーであることがわたしたちに天を保証するのではない。わたしたちはキリストのうちに宿っていなければならない。そして、このお方の愛がわたしたちのうちに宿っていなければならない」(ビュー・アズ・ヘルド 1884 年 6 月 3 日)。

一致

詩篇 133:1; ヨハネ 17:21-23; コリント第一 1:10; ピリピ 2:2-5; ヨハネ第一 1:7 参照。

「もし世が神の教会のうちに完全な調和が存在しているのを見るならば、それは彼らに対してキリスト教に有利な力強い証拠となる。不和、不幸な相違、そしてつまらない教会の試練はわたしたちの贖い主をはずかしめる。これらはみな、自己が神に屈服し、イエスの信徒たちが教会の声に従うならば避けられるのである。不信は、個々の独立性が自分たちの重要性を増すのであり、何が正しく適正であるかについて自分自身の考えを教会の決定に譲ることは弱さであるとほめかす。しかし、そのような感情や見解に屈服するのは安全でなく、わたしたちを無秩序と混乱へ導き入れる。キリストは一致とクリスチャンの交わりが神のみに事業に必要であることをご覧になり、そのためにご自分の弟子たちにそれを課された。そしてその当時から今までのキリスト教の歴史は、最終的にこの一致においてのみ力があることを証明している。個々人の判断を教会の権威に従わせなさい」(教会への証 4 卷 19)。

「教会における分裂や不一致の原因はキリストからの分離である。一致の秘訣は、キリストとの一致である。キリストこそ偉大な中心であられる。わたしたちは中心に近づく分それに比例して互いに近づく。キリストと結合するとき、わたしたちは確実に信仰にある自分の兄弟たちと結合するようになる。クリスチャンになるということは、考えられているよりはるかに多くのことを意味する。クリスチャンとは、キリストに似たものである。教会員であるということがわたしたちをクリスチャンにするのではない」(エルン・G・初仆 1888 年原稿 1125)。

「迫害の嵐が本当にわたしたちの上に炸裂するとき、真の羊は真の羊飼いのみ声を聞く。失われた者を救うために自己否定的な努力が払われ、囲いからさまよ

い出ていた多くの者が戻ってきて偉大な牧者に従うようになる。神の民は互いに近づき、敵に対し一致して前線を張るのである」(教会への証 6 巻 401)。

「一致はクリスチアンの完全の確実な結果である」(聖化された生涯 85)。

「わたしたちは一致すべきであるが、誤謬という土台の上にはない」(原稿リ→15 巻 259)。

使徒職の継承

使徒職の継承は、単に世襲や教会の権威の譲渡ではなく、霊的な関係や品性の似ていることに基づきます(出エジプト記 33:13-16; マタイ 3:9; ヨハネ 8:39; ローマ 9:6-8; ガラテヤ 3:7)。神のみ言葉の中で明らかにされている条件に応じ、み旨を行ない、このお方の戒めを守る人々だけが、使徒職の継承を主張することができます(出エジプト記 19:5; マタイ 7:21; ルカ 3:8; ヨハネ 8:31)。

「アブラハムの子孫ということは、名や血統によらず、品性が似ていることで証明された。同じように使徒の継承は、教会の権威を引き継ぐことにあるのではなくて、霊的な関係にあるのである。使徒たちの精神、彼らが教えた信念と真理の教えとを原動力とする生活—これが使徒の継承の真の証拠である。これが人を福音の最初の教師たちの後継者とならせるのである」(各時代の希望中巻 256, 257)。

「黄泉の力」は打ち勝つことができない

「教会は神が反逆した世に持つておられる神のとりでであり、神ののがれの町である。教会への裏切り行為は、ひとり子の血によって人類をあがなってくださいと神に対する反逆である。世のはじめから忠実な人々がこの地上に教会を構成してきた。いつの時代にも主は見張りびとをお持ちになっていた。彼らは、彼らが生きた世代に忠実なあかしを立ててきたのである。これらの見張りびとたちは警告のメッセージを伝えた。そして、彼らが自分のよろいをぬぐように命じられたとき、他の人々がその仕事を受け継いだ。神はこうしたあかしびとを神との契約関係に置かれて、地上の教会を天の教会と結ばれたのである。神はご自分の教会に仕えさせるために、天使たちをおつかわしになった。そして、黄泉の力は神の民に打ち勝つことができなかった」(患難から栄光へ上巻 3)。

「使徒たちは確かな土台、すなわちとこしえの岩の上に築いた。彼らはこの土

台に、世界から切り出された石を運んできた。建設者たちの働きに障害がないわけではなかった。キリストの敵たちの反対により、彼らの働きは非常に困難になった。彼らはにせの土台の上に築こうとしている者たちの偏狭、偏見、憎悪と闘わなければならなかった」(同上下巻 304)。

「義の敵は、神の建設者たちにゆだねられた仕事をやめさせるための努力に骨身を惜しまなかった。しかし神は、『ご自分のことをあかししないでおられたわけではない』(使徒行伝 14:17)。ひとたび聖徒に伝えられた信仰をりっぱに守る働き人たちが起こされた」(同上下巻 306)。

この日を神と共に

This Day with God



2月

神は何を期待されるか

「神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜う……主のみまえにへりくだれ。そうすれば、主は、あなたがたを高くして下さるであろう。」(ヤコブ 4:6-10)

神が人に責任を委ねられるとき、このお方は彼らにご自分の律法に従うことを求められる。彼らは、主が自分たちの同胞に対する取り扱いをすべてご覧になり、このお方がすべての不当な圧政的行動を罰せられるということを悟って、公正に取り扱うべきである。神は人にキリストと一つになり、神と一つになる機会をお与えになる。神のご品性を瞑想しながら、神を畏れて歩む者たちは、日毎にますますキリストのようになる。神を知らずにいることを選ぶ者たちは仰々しく、高慢者となる。

自分では大いなる威厳だと思っているものを身につけている者たちが多くいる。しかし神のみ前にはそれらは愚かなものである。彼らは神の鏡を覗き込まず、自分たちのうぬぼれが聖なる神のみ前に何とばかげたものであるかということを知らないのである。表面下をご覧になるお方は彼らの自己満足を嫌悪される。彼らは教会や世において責任ある地位についているかもしれないが、彼らが自分を礼拝の対象とすることによって彼らの創造主の名誉を汚し続ける限り、彼らは神に対する侮辱なのである。

神はご自分に反対して歩み、ご自分のご品性を誤って代表する者たちを罰することをお喜びにならない。しかし彼らが悔い改めない限り、彼らは自分たちの取った行動方針の確かな報酬を刈り取らなければならない時が来る。……

神に仕える契約に入った者たちは、彼らの生活が真理と誤りの相違を示さないような者とならないように恐れるべきである。彼らはむなしい空想と人間の臆測とへつらいへと逸れてはならない。義人の生活は、神に自分の忠誠を捧げることを拒む者たちを恥じ入らせるべきである。……神はご自分の民に全く謙遜のうちにこのお方のみ前で歩むように求めておられる。このお方は彼らが靈的知識においてより高くさらに高く到達してほしいと望んでおられる。このお方は人を導き、ご自分への忠誠に立ち返らせるためにあらゆる方法で促される。……

神は人が自らへりくだるように導こうとしておられる。このお方は彼らが自分たちの足を偉大な医療伝道者であられるお方のみ足の跡におくよう導こうとしておられる。しかし贖い主は大いに公言している者たちによって、たびたび落胆させられ、再び十字架にかけられるのである。(手紙 61, 1904 年 2 月 1 日、「責任を担っているわたしの兄弟方」へ)

2月2日

どのように影響を与えるか

「人々はペテロとヨハネとの大胆な話しぶりを見、また同時に、ふたりが無学な、ただの人たちであることを知って、不思議に思った。そして彼らがイエスと共にいた者であることを認め」(使徒行伝 4:13)

キリストがこの地上におられたとき、このお方は漁師たちに、福音伝道の奉仕へ準備をするためにその網と船をおいて、ユダヤの教師のところへ行くようにとは指示されなかった。このお方はガリラヤの海辺を歩いておられると「ふたりの兄弟、すなわち、ペテロと呼ばれたシモンとその兄弟アンデレとが、海に網を打っているのをごらんになった。彼らは漁師であった。イエスは彼らに言われた、『わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう』。すると、彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った。そこから進んで行かれると、ほかのふたりの兄弟、すなわち、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネとが、父ゼベダイと一緒に、舟の中で網を繕っているのをごらんになった。そこで彼らをお招きになると、すぐ舟と父とをおいて、イエスに従って行った」(マタイ 4:18-22)。

質問もせず、賃金の約束もなく、直ちに応じたこの服従は、並外れたことのように見える。しかしキリストのみ言葉は、このお方が言われたことはことごとくそうなるということを暗示する招きであった。このお方のみ言葉の中には駆り立てる感化があった。長い説明はなかったが、このお方が言われたことには引き付ける力があった。……

キリストはご自分とのつながりによって、これらのつつましい漁師たちを、サタンの奉仕から人々を解放し、彼らに神の王国について教え、キリストの信者とする手段になさろうと望まれた。この働きにあつて彼らはこのお方に仕える者、人間をとる漁師となるのであった。……

キリストはこの世の愚かな者一世が汚れた者また無知な者と宣言した人々を、この世の知者たちをはずかしめるために選ばれた。弟子たちはラビの伝統においては無学であったが、彼らの模範また教師としてのキリストによって彼らは最高の種類の教育を得ていた。なぜなら彼らの前には神の模範があつたからである。キリストは彼らに最高の種類の真理を提示しておられた。

神がご自分のために奉仕するようお用いになる者たちを、このお方はご自分の方法でその奉仕にふさわしい者にしようと望まれる。キリストを説く者たちはキリストから日毎に学ばなければならない。それはこのお方がそのために死なれた魂を救い、また仕えるという奥義を理解するためである。……彼らはこのお方の優しいあわれみとすべての悪の働きに対するこのお方の厳しさを分かち合うことによって、すべてのことにおいてこのお方に従って模倣しなければならないのである。(手紙 53, 1905 年 2 月 2 日新しく設立されたパラダイス・バレー療養所の二人の指導者へ)

恐れ、弱々しく、力がない者へ

「主に信頼して善を行え。そうすればあなたはこの国に住んで、安きを得る。」(詩篇 37:3)

「主に信頼し」なさい。一日一日、その日の重荷や心配事、また当惑がある。そしてわたしたちが直面するとき、いかにたやすく自分たちの困難と試練について話してしまうことであろう。あまりにも取り越し苦労がおしよせ、あまりにも心配ばかりし、あまりにも重苦しい不安を表現するために、人はあたかもわたしたちに憐れみ深く愛に満ちた救い主、すなわちいつでもわたしたちのすべての要求を聞き、わたしたちにとって困窮しているときのいと近き助けとなってくださる救い主がおられないかのように考えるのである。

ある者たちはつねに恐れ、自ら困難を招いている。毎日彼らは神の愛のしるしによって囲まれ、毎日彼らはこのお方の摂理の恵み深さを享受しているが、彼らは今あるこれらの祝福を見過ごしてしまう。彼らの思いは絶えず、何かあるかもしれないと恐れている不愉快なことをくよくよと考えている。あるいは、本当に何か困難が存在するかもしれないが、それは小さなものであるにもかかわらず、当然感謝すべき多くのものに対して彼らの目を盲目にしているのである。彼らがたえず不安に感じ、不平を言うので、彼らが遭遇している困難は、彼らを助ける唯一の源である神へとせきたてる代わりに、彼らをこのお方から引き離してしまう。

兄弟姉妹方よ、わたしたちはこのように不信仰であってよいであろうか。いったいわたしたちは恩知らずで、疑い深い者であってよいであろうか。イエスはわたしたちの友であられる。全天はわたしたちの幸福に関心を持っている。そしてわたしたちの心配と恐れは神の聖霊を悲しませる。わたしたちはただ自分を心配させ、消耗させるだけで、試練を負う助けとはならない心配事にふけるべきではない。あたかもわたしたちの幸福がこれらの地上の事柄によって成り立っており、また神が万物を支配されているという事実を無視しながらそれらを得ることができかねるような将来の必要に対して準備することを人生における最も重要な仕事にしてしまうような神に対する不信を、少しでも許してはならない。

あなたは仕事において当惑しているかもしれない。見通しはさらに暗くなるかもしれない。そしてあなたは損失の危機にさらされているかもしれない。しかし落胆してはならない。神にあなたの心配をゆだねなさい。そして穏やかで快活でいなさい。毎日を真剣な祈りによつてはじめなさい。讃美と感謝を捧げることを怠ってはならない。あなたの実務を、思慮をもってやり遂げ、それによって損失と大失敗を防ぐことができるように知恵を求めなさい。良い結果を出すためにあなたの役割においてできる限りのことをしなさい。イエスは神の助けを約束されたが、人間の努力を別にして約束されたのではない。(ビュ・アンド・ハルト 1885 年 2月3日)

2月4日

学びにおける助け

「あなたは真理の言葉を正しく教え、恥じるところのない錬達した働き人になって、神に自分をささげるように努めはげみなさい。」(テモテ第二 2:15)

どのように聖書を理解するか注意しなさい。神のみ言葉が入るように心を開いて読みなさい。そうすれば聖書は天の光を示し、無学な者に知恵を与える。これは知力が弱い者ということではなく、真の知識で成り立っている天からの知識を追求するにあたり、独自の独立した者になろうとして、自分の分や能力の限度を超えてむりに手を延ばすようなことをしない者のことである。

神のみ言葉を扱うすべての者たちは、最も厳粛で聖なる働きに携わっている。なぜなら無学な者たちに与えることができるために、彼らの研究において光と正しい知識を受けなければならないからである。教育とは、光と真理である思想の教えである。他の人々を教育できるように熱心に忍耐をもって聖書を研究するすべての者、すなわち調べるにあたって、どんなものでもあらゆる自分の先入観と、また先天的な偏見を捨てて、正しく正直な心で働きを始める者はすべて、真の知識を得るのである。しかし、数節に重みをおき、それらに間違った意味を当てはめることによって、聖句に誤った解釈をほどこしてしまうのはたやすい。そうした意味は研究し始めた当初は正しく思えても、さらに研究していくうちに間違っていることが分かるのである。もしみ言葉の探求者が聖句と聖句を比較するなら、宝庫を開いて自分に神のみ言葉の真の理解を与えてくれる鍵を見出す。そして彼は、自分のはじめの考えは研究に耐えないものであり、もしそれを信じ続けるならば、真理と偽りを混ぜ合わせるようになってしまうことを悟るようになるのである。

詩篇記者ダビデは、思いの変化を数多く経験した。時おり、神のみ旨と方法を見たとき、彼は大いに意気高揚した。その後、神の憐れみと不変の愛の裏面をかいま見たとき、すべては暗黒の雲に覆われたように思われた。しかし暗黒を通して彼は神の特質についての見解を得て、それが彼に確信を与え、彼の信仰を強めたのであった。……

彼が泣いて祈ったとき、彼は天来の代理者たちに教育されて、神のご品性と特質のよりはっきりした見解を得た。そして、彼は神の正義と厳格さに対する自分の考えは誇張されていたとの結論を下したのであった。(原稿 4、1896 年 2 月 4 日)

数え切れない祝福

「主を待ち望め、強く、かつ雄々しくあれ。主を待ち望め。」(詩篇 27:14)

わが姉妹よ、雄々しくありなさい。あと少しでわたしたちはイエスにお会いする。「あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言うておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである」とイエスは弟子たちに言われた(ヨハネ 14:1-3)。

主にあつてあなたの心を元気づけなさい。わたしは将来の輝かしい見通しに喜び、あなたもそうであるように願う。快活で、人の子らに対する愛なるいつくしみのために主を讃美しよう。暗い面を見てはいけない。神を信じる信仰を持ちなさい。わたしたちはキリストの所有物であり、このお方はわたしたちを愛しておられること、そしてわたしたちの助けまたわたしたちの神となつてくださることを覚えよう。

昨晚わたしは長い間起きていた。わたしは悩み、案じていた。なぜなら、わたしはある者たちが誘惑され、試みられていることを知っており、どのようにしてそれらの人々にイエスを見あげ、この方の愛のうちに彼らの心を慰める助けができるか思い巡らしていたからである。わたしは、次のように思った。目を覚まして横たわっているあいだ、自分のために、またそれ以上に誘惑され、試みられている他の人々のために祈りながら、ただキリストのみ手をつかみ、このお方のみ声を聞けさえしたら、と。わたしは一時以降眠ることができなかった。わたしは今日しようと思っていた書き物があるのに、眠れなければとてもできないであろうと思って残念であった。しかし二時にわたしは起きて、着替えをし、火をおこし、朝食前に何ページも書いた。朝食後にも何ページも書いたが、まったく眠気を催さなかった。

すべての恩恵に対して感謝しよう。日光のように明るいクリスチャンになるように努めよう。最後まで堅くつかんでいないのではないかと恐れて、わたしが悩んでいた魂については主にゆだねる。神の力による本物は、道徳的な暗黒のただ中で輝くのである。なぜなら、キリストの光がその上に輝くからである。このお方にわたしたちは絶え間ない讃美と感謝を捧げるべき義務を負っている。なぜなら、わたしたちは信仰を通してこのお方の力によって守られているからである。わたしたちは自分自身を守ることができない。

雄々しくありなさい。主はあなたを愛し、あなたのすべての弱さを憐れまれる。このお方はあなたがこのお方に信頼しさえすれば、確かにあなたを力づけ、祝福される。無限の神の心は、ご自分の御子愛する者に、ご自分の御子をお与えになるという祝福以下を与えるだけでは満足させられないのである。(手紙 57, 1905 年 2 月 5 日、牧師の妻である A. J. ブリード夫人へ)

2月6日

感謝にあふれた心

「そしてすべてのことにつき、いつも、わたしたちの主イエス・キリストの御名によって、父なる神に感謝し」(エペソ 5:20)

あなたが自分自身について忘れるように努めるなら、それは主を喜ばせるであろう。あなたの家庭とあなたの住みやすい環境について、また主があなたに与えられる多くの地上の祝福に対して主に感謝することを始めなさい。主のいつくしみについて主に感謝をお返しすることによって、あなたは自分のためにすべてをしてくださったお方に何かすることができ。救い主があなたのために感じられたあわれみの深さを瞑想しなさい。あなたのためにこのお方はご自分の命を与えられ、十字架上で残酷な死を苦しまれた。あなたはこのために主を讃美することができないのであろうか。もしあなたがキリストのうちにあなたの命を隠すなら、このお方はあなたを受け入れられるのである。

もしあなたが毎日自分の意志の力を働かせようと努めることによって、あなたに働く信仰があることを示すなら、あなたの機能は力を得るようになる。わたしは経験によってこれを知っている。わたしは自分の例で、自分の機能を働かせようとしたときに、いかにそれらがしなやかさを取り戻したかを覚えている。あなたは行動を開始し、快活な精神をもとうと努めるであろうか。あなたの信頼をイエスに置きなさい。このお方のうちに信仰を持ち、このお方のみ手の中でしなやかなものでありなさい。あなたは自分の習慣を変えることによって大きな祝福を受けるようになる。……

オーストラリアに行ってから 11 ヶ月の間、わたしは炎症性リュウマチによって苦しんだ。わたしは激痛を感じないでは足を床から持ち上げることができなかった。……

その 11 ヶ月の苦しみの間……わたしはあきらめなかった。わたしの右腕はわたしがペンを使うことができるようにひじから下は健全だったので、わたしは出版のために便箋 2500 ページを書いた。この期間中、わたしはわたしの生涯中最も辛い苦しみを経験した。……

しかしこれらすべてのものに明るい面がある。わたしの救い主はわたしの近くにおられるように思えた。わたしは心の中にこのお方の聖なるご臨在を感じ、とても感謝していた。わたしの救い主との交わりによってこれらの苦しみの月日はわたしの生涯での最も幸福な月日であった。……このお方の愛はわたしの心を満たした。わたしの病気のあいだ中、このお方の愛、このお方のあわれみ深いいつくしみはわたしの慰めであった。……

あなたのあわれみ深い愛なる救い主であるイエスを見なさい。もしあなたが無力な魂をキリストに投げ出すなら、このお方はあなたの魂に喜びと平安を与えられる。このお方はあなたの喜びの冠、あなたの大きい報いと与えられるのである。(手紙 34, 1907 年 2 月 6 日、オーストラリアの支部会計の妻へ)

天来の鏡

「わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。」(コリント第二 3:18)

わたしの親愛なる兄弟、あなたは何を眺めてきたのであろうか。男女の不完全さを眺めることによって、あなたは少しずつ同じ姿に変えられているのである。決定的な変化をなさない。そして、イエスを仰ぎなさい。それはこのお方の完全さを眺めることによってあなたがこのお方のかたちに変えられるようになるためである。そのときこのお方の霊があなたの思いと品性を所有なさるのであろう。あなたのあわれみと信心、あなたの言葉と行動によって、真理と義への霊的活動によって、あなたはキリストを表すのである。

人が人間の不完全さから目を離し、キリストを眺めるとき、神聖な変化が彼の品性のうちにおこる。彼はあたかも神の栄光を反射する鏡の上に目を留めるように、キリストに目を留める。そして、眺めることによって彼は「栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである」(コリント第二 3:18)。「もし、キリストの霊を持たない人がいるなら、その人はキリストのものではない」(ローマ 8:9)。

あなたの目を他人の不完全さから離し、キリストにしっかりと固定しなさい。砕けた心をもってこのお方の生涯と品性を研究しなさい。あなたはさらに啓発されるだけではなく、生かされる必要がある。それはあなたが自分の前にある祝宴を見ることができ、神の御子の肉と血、すなわちみ言葉を食べ、また飲むことができるためである。善なる命のみ言葉を味わうことによって、また命のパンによって養われることによって、あなたは来るべき世の力を見ることができ、キリスト・イエスにあって新しく造りかえられることができるのである。もしあなたがこのお方の賜物を受けるなら、あなたは聖潔へと新たにされ、このお方の恵みはあなたのうちに神の栄光への実をみのらせるのである。

聖霊はキリストを思いに示し、信仰はこのお方をつかむ。もしあなたがキリストをあなたの個人的救い主として受け入れるなら、あなたは経験によってカルバリーの十字架上であなたのために捧げられた大いなる犠牲の価値を知るのであろう。キリストの霊は心に働きかけ、このお方のかたちへと一致させる。なぜならキリストが、み霊の働かれる模範だからである。このお方のみ言葉の働き、またこのお方の摂理の働き、そしてこのお方の内なる働きによって、神はキリストの肖像を魂に押されるのである。

キリストをわがものとするのがあなたの第一の働きであり、そして、ご自分の許に来るすべての人々を、完全に救うことができるお方としてキリストを示すことがあなたの次の働きである。(原稿 10, 1897 年 2 月 7 日、「キリストを代表する」)

2月8日

奮闘からの力

「しかし主なる神はわたしを助けられる。それゆえ、わたしは恥じることがなかった。それゆえ、わたしは顔を火打石のようにした。わたしは決してはずかしめられないことを知る。」（イザヤ 50:7）

あなたは無限の値をもつて買い取られたのであり、あなたは自分自身のものではない。魂、体、霊はイエス・キリストに属しており、あなたは全く謙遜のうちに、しかし断固として、また決意をもって「わたしは主のものである。わたしは心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、能力を尽くしてこのお方に仕える」と言いなさい。

あなたが出会う反対によって落胆してはならない。永遠の岸辺にたどりつこうと努力する人は風と潮に逆らって奮闘しなければならない一方で、現時点では、義と聖から闇へと下る流れに漂う方が心地よく、不法がたやすいかもしれない。霊において積極果敢でなく、あるいは行動において勇敢でないただ世の流れによって墮落している信仰と宗教は、世によって賞賛され、尊敬され、高く評価される宗教にすぎない。……

神の真理を軽蔑する部類の者たちから呼び起こされる軽蔑と嘲笑は、クリスチャンの高潔に対する賞賛である。もしあなたが世のものなら、あなたは世のほほえみと、お世辞と賞賛を楽しむことができる。もし栄光の望みであられるイエス・キリストがあなたのうちにおられるなら、あなたの霊性は世の誇りと放縦を非難するのである。……

あなたが出会う反対は多くの観点においてあなたにとって益となることが分かるであろう。それは繁栄と輝かしい道においてはほとんど生じることがない種類のクリスチャンの徳を発達させるのである。信仰、忍耐、自制、天の思い、摂理へのさらなる信頼は、暗黒の雲、嵐、暴風雨の中で花咲き成熟する実である。一本立ちで激しい風と嵐と暴風雨にさらされている森の木は、強風によって根こそぎにされることはなく、かえってその根を深くのぼし、すべての方向に枝を広げ、嵐と暴風雨に耐えた結果としてさらに美しく強くなるのである。あなたもこうなれる。あなたは同情と人の援助を奪われているかもしれない。あなたは自分の唯一の望みは、神への嘆願のうちに手を伸ばし、あなたの贖い主にすがりついてその無力な魂をゆだねることだけだと感じるかもしれない。天が送る助けはあなたがちょうど必要としているものである。……

もしあなたが神を畏れるなら、あなたはほかに恐れる必要はない。もしあなたがこのお方を喜ばせるなら、あなたは自分の魂が必要としているすべてを確保することになるのである。（手紙四 a、1880 年 2 月 8 日、ブリッグス姉妹へ）

新しい命

「またほかの譬を彼らに語られた、『天国は、パン種のようなものである。女がそれを取って三斗の粉の中に混ぜると、全体がふくらんでくる』。』（マタイ 13:33）

パン種が粉に入れられると、それはすべての部分に行きわたり、最後には全体的変化が生じるのである。人間の心に働きかける聖霊の働きもそのようである。受け入れられ信じられた真理は、新しい規定、すなわち新しい行動の原則を生活に取り入れる。新しい品性の水準—キリストの生涯—が設定される。そのように真理を受け入れる者たちはキリストに頼り、彼らはますます多くの力を受け、またますますさらに大きな光を受けるのである。日毎に彼らは自分の心から虚栄心、利己心、自己の義を追い出す。

彼らがキリストの霊を受けるとき、光が彼らから明白なはっきりとした光線のうちに輝く。彼らは永遠の事実の厳粛さを感じる。思いと心全体の再生が起こる。粉に入れられたパン種が全体を膨らませたように、真理のパン種も心に入れられると、それに魂、体、霊のすべての特性を取り込んでしまうのである。……

心の変化とは、人格全体があますことなく変化することを意味している。「よくよくあなたに言うておく。だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」（ヨハネ 3:3）。この心の変化は見えない。なぜならそれは内の働きだからである。しかし、それでもそれは見えるのである。なぜならそれは内から外へ働きかけるからである。

真理のパン種はあなたの心の中で働いてきたであろうか。それはその聖化する力によって心全体、また愛情全体を取り込んできたであろうか。……

わたしたちのはじめの働きはわたしたち自身の心からである。改革の真の原則は実践されるべきである。心は改心させられ、聖化させられなければならない。そうでなければわたしたちはキリストと何のつながりもないのである。わたしたちの心が分かたれていながら、わたしたちがこの生涯においても将来の生涯においても有用性にふさわしくなることは決して、決してないのである。知性のある存在として、わたしたちは座して、自分たちが本当にまず神の国と神の義を求めているかどうか考える必要がある。わたしたちができるまさに最善のこととは、自分たちがクリスチャンの希望を手にいれ、クリスチャンの天国を確保するのに必要な努力をすることを望んでいるかどうかを冷静にかつ率直に考えることである。もしキリストの恵みを通してわたしたちが行うことを決心するなら、次の質問は「わたしがつまづくことのないようにするために、わたしの生活から切り取らなければならないものは何があるか」ということである。（原稿 14, 1898 年 2 月 9 日、「パン種のようなもの」）

2月10日

このお方のご臨在の約束

「御言を宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても、それを励み、あくまでも寛容な心でよく教えて、責め、戒め、勧めなさい。」(テモテ第二 4:2)

改革の働きを試みる者はだれでも、断固とした反対に直面することになる。この働きは自己放棄を要求している。……

わたしたちは自分が評価されるか、あるいは評価されないかを問うべきではない。これはわたしたちとは何の関係もない。キリストが働かれた方法を見なさい。どんな改革でも試みる者はだれでも、また罪人を自己否定と神聖の生活へと導こうと試みる者はだれでも、復活の後にキリストから与えられた「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」という確信を毎時必要とする(マタイ 28:20)。

み言葉を信じなさい。み言葉に生きなさい。過去にあなたがなしたように、み言葉を伝えなさい。主イエスはご自分のご臨在をあなたに約束なさった。それを信じなさい。それを感謝しなさい。払われた自己否定と自己犠牲にどれくらい感謝が表されたかを量るのはあなたやわたしのなすべきことではない。

改革の働きは人知が耐えることのできるすべての信仰と涙と祈りを必要としている。わたしたちの任務は、十字架を掲げよである。そしてイエスの後に従ってそれを負い、十字架上で予期された苦しみとバプテスマを熱望するようにイエスを導いたのと同じ精神を得るために苦闘せよ、というものである。

ゲッセマネの園におられたとき、苦しみの杯が救い主のみ手に置かれ、それを飲むべきか、それとも世が罪のうちに滅びるままにするべきかという思いがこのお方に浮かんできた。このお方の苦しみは人間が把握するにはあまりに大きすぎた。魂の苦悩がこのお方に臨んだとき、「その汗が血のしたたりのように地に落ちた」(ルカ 22:44)。神秘的な杯がこのお方のみ手の内に震えた。すべてが危険にさらされている時、この恐ろしい危機において、神の御前に立つ力強い天使が、このお方のみ手から杯を取り去るためではなく、それを飲むようこのお方を力づけるために、み父の愛の確信をもってキリストの傍らに來た。

キリストはその杯を飲み干された。そして、これこそ罪人が神の許に來て許しと恵みを見出すことができる理由である。しかし、キリストの栄光にあずかる者たちは、このお方の苦しみにもあずからなければならない。……

わたしたちは十字架を取り上げ、すべての段階において自己否定を実践しながら、知的にキリストに従うということは、何を意味しているかを理解しようではないか。(手紙 66, 1906年2月10日、S. N. ヘスケル長老と夫人へ)

神の善が表される

「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。」(ペテロ第一 2:9)

蠟に印が押されるように、魂は神の道徳的なかたちを受けて、それをとどめるのである。わたしたちはこのお方の純潔と義を眺めることによって、満たされ、神の姿に変えられるのである。わたしたちが目覚めて、堅固で揺らぐことのない活動的な信仰を持たない限り、わたしたちの魂は鈍くなり、信仰は弱いものとなってしまう。……

今日の神の民の大いなる罪は、神がわたしたちの上に賜った祝福の価値を感謝しないことである。わたしたちは分かたれた心をもって神に仕えている。わたしたちは何らかの偶像を大切に、その神社で拝んでいる。神の真理は、もし生活に持ち込まれて品性に織り込まれるなら、高められ、聖なるものとなり、魂を聖化する。神は真理によってわたしたちを分離した特殊な民にしようと求めている。これは真理の感化である。わたしたちの服従と献身はわたしたちの光と特権に見合ったものではない。また、光の子として歩くようにとわたしたちに課されている聖なる義務を、わたしたちは果たしていない。クリスチャンとしてわたしたちは自分たちの高い召しに達していないのである。警告と非難が神からわたしたちに与えられてきたが、わたしたちが目標を目ざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めることを生涯の働きだとみなさないで、それはある期間しかわたしたちに感化を及ぼさないものである。

ああ、神の民が自分たちの優れた特権を考慮し、また神のみ言葉からの光から、わたしたちが自分たちの道に輝いている光によって裁かれなければならないということを理解すればよいのだが。神から与えられたすべての特権と機会は、わたしたちをよりよい男女にするという目的のためである。神の民は確固とした原則によって動かなければならない。まず神と神の義を求めるということを彼らの第一の原則として、その後、光からさらに大きな光へと進まなければならないのである。……

神のみ言葉を本当に信じるすべての魂は、自分の働きによって同じことを示すのである。神の大いなる善はご自分のみ旨のうちに掲示されている。このお方のみ旨またはみ言葉が彼らにするように要求するものは何であつても、もし行うことを怠るなら彼らはクリスチャンにはなりえないのである。真理はわたしたちの魂を救うことができる。なぜなら、神がご自身のみ霊によって、たえずその中にある働いておられるからである。そして、神の働きが真理を聖化する力とするのである。(手紙 8, 1887年2月11日、ロックウッドの兄弟姉妹方へ)

2月12日

大使たち

「神がわたしたちをとおして勧めをなさるのであるから、わたしたちはキリストの使者なのである。そこで、キリストに代って願う、神の和解を受けなさい。」(コリント第二 5:20)

人のうちに神のかたちを回復する計画において、聖霊が人間の思いに働きかけ、キリストの臨在として人間の品性を形成する代理人になるための備えがなされた。真理を受け入れることによって、人はまたキリストの恵みを受ける者となり、キリストが携わっておられた働きに、自分たちの聖化された人的能力を捧げる。すなわち、人が神との共労者となるのである。神の真理をはっきりと理解させてくださるのは、人を神の代理人とするためである。しかしわたしは教会に尋ねたい。この目的に応えただろうか。神の真理の光を広めることにおいて、また真理の尊い宝石を撒き散らすことにおいて神のご計画を成就したであろうか。

天使たちがキリストの教会を眺め、キリストに従者だと公言する人々の行動が、道徳的暗黒の中にいる世に真理の光を分け与えるのにどれほど遅いかを見ると、彼らはどんな思いをしているであろうか。天の知的存在者たちは十字架が魅力の大中心であることを知っている。彼らは墮落した人間が贖いを受け、神との和解に入れられるのは十字架を通してであることを知っている。

天の議会は、キリストを自分の個人的救い主として受け入れたと公言しているあなたが暗闇の中に座っている者たちに神の救いを知らせているのを見ようと見守っている。彼らはあなたが、聖霊が与えられることの重要性を知らせているのを見ようと見守っている。すなわちこの神なる代理人の働きを通して、罪によって墮落し汚されている人の思いが、いかにサタンの偽りと現象の魔力から目覚めるようになり、またいかにキリストを自分たちの唯一の希望またその個人的救い主としてこのお方に立ち返ることができるかを知らせるのを見ているのである。

キリストは「わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであ……る」(ヨハネ 15:16)。キリストの使者として、わたしはこれらの文を読むすべての者に今日という日に注意しなさいと懇願する。「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはしてはならない」(ヘブル 3:15, 4:7)。一瞬たりとも躊躇することなく、キリストにとってわたしは何か、そしてわたしにとってキリストとはどなたか、わたしの働きは何であろうか、わたしが結ぶ実である品性はどんなものかと問いなさい。(レビュー・アンド・ヘラルド 1895年2月12日)

心の奉仕

「『心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。また、『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』。」（ルカ 10:27）

心は人全体の要塞であり、心がまったく主の側におかれるようになるまでは、敵は手中に収めることのできる無防備な入口を見つけるのである。「恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである」（ピリピ 2:12, 13）。もしあなたが光を自分のものとしたいならば、あなたは知的にそれを大切に、絶え間なく信仰を働かせなければならない。そして、感情によって支配されてはならないのである。真理が愛され、大事にされ、聖なる賜物として見なされるとき、真理が聖霊によって植えつけられたということは明らかである。そして愛は生ける水の泉のように心の中であふれ出て、永遠の命へとあふれ出るのである。この愛が心のうちにあるとき、働き人はキリストの働きに疲労を感じることはない。

天からの光が一すじでも疑問と疑いのうちに保持されてはならない。大いなる力のうちに主はあなたにご自身の恵みとあわれみと愛を示された。そして神の働きを過度の興奮だと非難し、それを狂信と呼ぶ者は確かに危険な立場にいるのである。そのような者が彼らの歩みを訂正しないなら、彼らの良心はますます敏感ではなくなり、また彼らの神の霊に対する感謝はますます少なくなるのである。彼らにとって神のメッセージを理解することがより難しくなる。なぜだろうか。それは彼らが聖霊に対して罪を犯しているからである。そして、彼らの抵抗の結果、彼らは神の霊を認識できないところに自分自身を置き、かえって神が彼らを破滅から救うために用いることのできるすべての手段に反する立場においている。「どんなしるしをわたしたちに見せてくれますか」とユダヤ人たちはキリストに言ったが（ヨハネ 2:18）、この時、このお方の生涯と品性、このお方の教えと奇跡がこのお方の聖なる使命と神性の絶え間ないしるしだったのである。

神がキリストに引き寄せるために人を感動させられるとき、抵抗しがたい力が彼らの上にのぞむようになり、彼らは信じて、神の霊の感化に自分たちを明け渡す。しかし、もし彼らが神のお与えになった尊い勝利を保持しないなら、またもし彼らが古い習慣と慣習がよみがえることを許し、娯楽または世俗の快楽をほしいままにするなら、もし彼らが祈りを怠り、悪に抵抗するのを止めるなら、サタンの誘惑が受け入れられ、彼らは自分の以前の経験の真実性を疑うように導かれるのである。（ビュー・アノド・ハルド 1894 年 2 月 13 日）

2月14日

神との同労者

「わたしたちは神の同労者である。あなたがたは神の畑であり、神の建物である。」
(コリント第一 3:9)

キリストがご自分の命を与えられた者たちの心を励まさない。彼らを自分のクリスチャン経験のために、自分の環境に頼ってはならないということを理解するように導きなさい。彼らに神との同労者となるための義務を悟らせるために、あなたの努力が必要である。しかしキリストがご自分の地上での奉仕の数年の間、一日中、しばしば成功することなく骨折られたことを考えて見なさい。無条件に心と思いと魂をキリストに捧げることを拒む者がみな、耐えなければならない永遠の損失を魂に強く訴えなさい。キリストに魂へ入っていただくことを拒んで過ぎ行く一日一日は、失われた日々である。であるから、あなたが労している者たちに、神にゆだねることによってどれほどのものを得ることができるか示さない。

祈りは神の働きの人に新たに戦うための霊的力を与える。ここにあなたの最も大きな力の源がある。神は天のご自分のおられるところから腰をかがめて、ご自分のために働いている者たちを生ける関心をもって見守っており、ご自分の恵みをご自分のみ座に嘆願する者たちに与えようと待っておられることが表されている。……

あなたが神との同労者であり、つねにこのお方の恵みによって守られているということがあなたの特権であることを決して忘れてはならない。キリストは地上にあって進められているすべての改革をなす運動を興味ぶかく見守っておられる。このお方はご自分の名をもって呼ばれているすべての者に日ごとに改心するように求めておられる。それは彼が聖霊の守りと力の下に、このお方の御事業のうちに知的に働くことができるためである。……

ご自分の民が聖別され、清められ、聖なる民になり、彼らのまわり全体に光を伝えるようにというのが神の目的である。しかし彼らが標準を高く掲げ続けるときのみ、また彼らが信じると公言している真理が義のために彼らに感化を及ぼし、彼らの霊的命を保つことができることを表すときのみ、そして彼らが真理の原則を自分の日常生活の一部とするときのみ、彼らはこの地上において神への讃美と誉れになることができるのである。神の奉仕において義の原則のために堅く立つことを可能にする恵みを受けることは、すべてのクリスチャンの特権である。(手紙 8, 1912 年 2 月 14 日, S.N. ヘスケルへ)

なすべき霊的な礼拝

「ねたみと党派心のあるところには、混乱とあらゆる忌むべき行為とがある。しかし上からの知恵は、第一に清く、次に平和、寛容、温順であり、あわれみと良い実とに満ち、かたより見ず、偽りが無い。」(ヤコブ 3:16, 17)

わたしにとって、はつきりしていることが一つある。環境が好ましくない地域にとどまり、いつも健康を損なっていることは、主の子供たちの義務ではない。わたしたちの兄弟の多くがこうして自分の命を失ってきた。ある場所で不和が雰囲気、満ちているならば、すなわち絶えず働き人の努力に逆らって働き、有利になろうと企んでいる人々によって彼の仕事ははなはだしく困難なものとされているならば、そのとき働き人には、環境が霊的にもっと健康的で、もっと成功の望みがもてるところに行かせなさい。……

わたしたちは自分たちが主の側で働くすべての場所で、サタンの代理者たちの努力に対抗して働くのだということを覚えていなければならない。あなたは試練を通ってきた。そしてあなたはどこにしようと、大なり小なり試練にあうことになる。サタンは品性のすべての弱点を見張っており、支配権を得ようと奮闘するが、わたしたちは主の側で勝利を得る機会を失うわけにはいかない。つねにわたしたちは敵に遭遇する。そして、わたしたちは警戒していない限り、勝利を得るための尊い機会を失ってしまうのである。……

現在におけるこの困難は形の上では多様ではあるが、キリストはその領域を通られたのであり、わたしたちは不確かさのうちにいる必要はない。このお方はわたしたちを招かれた。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」(マタイ 11:28-30)。約束は「わたしは彼の悩みのときに、共にいるのである」(詩篇 91:15)。

ああ、このお方はわたしたちにとって何という城また高きやぐらなのであろう。わたしは、主が偉大で永遠の真理を表すために弱い代理者を用いられたという証拠を持っている……ある者たちが生ける泉から離れて、こわれた泉を造りだし、そこから飲んでいるゆえに、大きな悲しみを通ってきた。わたしの魂は毎晩苦痛のうちにある。わたしは少しの時間しか眠ることができない。なぜなら偽りの道にいる者たちの思いが、わたしの魂を悩ますからである。(手紙 80, 1906 年 2 月 15 日、コロラド、ボルダー療養所の経営者、また後にビュー・アンド・ハルドの編集者になった F.M. ウィルコックスへ)

2月16日

神は詐欺を憎まれる

「大いに呼ばわって声を惜しむな。あなたの声をラッパのようにあげ、わが民にそのとがを告げ、ヤコブの家にその罪を告げ示せ。」（イザヤ 58:1）

偽善は特に神が嫌われることである。真理を知っていると公言している男女の大多数は、耳ざわりのよいメッセージを好む。彼らは自分たちの罪と欠点が自分たちの前に持ち出されるのを願わない。彼らは真理を語ることによって自覚をおこさせることをしない融通のきく牧師を求める。彼らは自分たちを褒めそやす人を選び、お返しに彼らはそのような「良い」精神を示した牧師たちを褒めそやし、その間神の忠実な僕を罵るのである。……

多くの者たちはイエスの恵みとあわれみと愛にとどまり、義務と責任を強く主張することを好まず、偽善の危険を警告せず、あるいは神の怒りの恐ろしさを提示することのない牧師をほめたたえる。

主の働きは、真剣な断固としたものであり、詐欺と偽善を超越している。このお方の真の羊飼いたちは人をほめたたえたり、高めたりはしない。彼らは明白な「イスラエルの聖者なる主はこう言われる」という言葉をもって人々の前に来るのである。彼らは人々が聞こうが聞くまいが、あるいは彼らが堪えようが堪えまいが、このお方のメッセージを担う。もし人々が神のみ言葉を軽んじ、迫害、偽善、世俗に頼るなら、彼らは人々に対して神の非難を宣告しなければならない。それは、もし可能ならば、彼らが目覚めて悔い改めるようになるためである。もし、彼らがあまりにも高慢で、悔い改めず、彼らの過ちを告白せず、神に帰らず、このお方の救いを歓迎せず、このお方の恩恵を求めないのなら、主はご自分の光を彼らから取り去り、彼らを選んだ道に歩むままにされるのである。

そのメッセージが、神の計画されたような感化を与えることがないようにと、主の忠実な使命者たちを苦境に追い込む者たち、彼らを落胆させる者たち、彼らと民の間に立ちだかる者たちは、彼らの行動の結果として教会に入ってきた欺きと異端に対して責任がある。彼らは神に恐ろしい申し開きをしなければならない。主がご自分の民を繰り返して警告された後に、まだ彼らがこのお方の声に聞き従うことを拒み、訓戒されないなら、彼らの罪はこのお方にとって特に憎むべきものとなる。彼らの反逆の記録はこのお方の前で書に記されており、裁判が開かれ、書き物が開かれるときには、彼らにつきつけられるのである。（原稿 10、1899 年 2 月 16 日、「警告の言葉」）

聖なる者となるために時間を取る

「これまでに書かれた事がらは、すべてわたしたちの教のために書かれたのであって、それは聖書の与える忍耐と慰めとによって、望みをいだかせるためである。」(ローマ 15:4)

わたしたちはすべての魂に、かつてなかったほどあなたの聖書を学びなさい、と申し上げる。……聖霊の指図の下に、真理の確信が人間の唇から語られるようにしなさい。わたしはすべての者に、誘惑に陥らないように、目を覚まして祈っていなさいと懇願する。

世界で進められている働きはわたしたちにとって大変重要なものである。ノアの時代にメッセージが与えられ、箱舟に入るようにとすべての者に招きが発せられたときにそうであったように、今も同じである。わたしたちはどれほどすみやかに警告の最後のメッセージが与えられ、わたしたちの判決が永遠に決まるかを知らない。しかし主は情け深く、このお方は招きを示しておられる「さあ、おいください。もう準備ができましたから」(ルカ 14:17)。

ノアの時代の世界のすべての住民に扉が閉ざされる前に箱舟に入る望みがあった。それが閉ざされた後、入った者たちは激しく試みられた。なぜなら彼らは雨が降る前に丸一週間箱舟の中にいたからである。ああ、入ることを拒んだ者たちによって、何という恐ろしいあざけりと嘲笑と神に対する反逆があったことであろう。しかし一週間が終わった後、雨が静かに降り始めた。これは新しいことであった。雨は地球全体から生きているすべてのものを滅ぼすまで続いた。しかし一つの家族一箱舟に入った家族一は救われた。

わたしたちは今地上歴史の終わりの場面のために準備する必要がある。すべての者は自分たちの罪が許されるように、自分自身の心を熱心に探り、改心しよう。世はいよいよ断固として神と神の真理に反対している。神のみ旨を行うすべての者たちは知識を得ることに於いて成功し、彼らの経験は価値のあるものとなる。わたしたちは今、短期間に大いなる働きをする準備をしなければならない。わたしたちは個人的な経験を持たなければならない。そしてもしわたしたちが主のもとに謙遜のうちにいくなら、このお方はわたしたちに見出される。そして、このお方はわたしたちと共に働き、このお方の救いが明らかにされるのである。

日夜わたしは上に向かって主に自分の祈りを捧げてきた。……わたしはこれほどの大いなる光を持っていながら、一步一步着実に光を拒んで歩を進めてきた者たちの状態について考え、意気消沈していた。……わたしは不信仰が打ち破られるのを見たいと望む。わたしはサタンが打ち負かされ、追放されるのを見たいと望む。……わたしは信仰という賜物によってしっかり踏みとどまっている。(手紙 84, 1906年2月17日、ミシガン、バトル・クリークで働いている E.W. フェーンズワース長老と夫人へ)

2月18日

天はここで始まる

「あなたを恐れる者のためにたくわえ、あなたに寄り頼む者のために人の子らの前に施されたあなたの恵みはいかに大いなるものでしょう。」(詩篇 31:19)

わたしは書き物をしながら、わたしたちすべてに対するわたしたちの救い主の愛情に満ちた見守りに対する深い感謝の念を抱いている。わたしは神のみ言葉を読み、祈りのうちにひざまずきながら、自分の嘆願を涙なしに捧げることができないほど神のいつくしみと憐れみによって深く感銘を受ける。わたしの心はわたしの天の父のいつくしみと愛について考えるとき征服され、砕かれる。わたしはこの命においてさらにますますイエスに飢え渴く。キリストはわたしのために十字架につけられたのだ。それなのにもしわたしがキリストと共に十字架につけられるとしたら、わたしはつぶやくのだろうか。

わたしは今感じているほど義への熱烈な切望をこれまで感じたことがない。夜起きている間のわたしの祈りは「主よ、どのように失われた羊を探し、救うかを、あなたの民に教えてください」である。

わたしたちは自分の前途に何があるかを知らず、わたしたちの唯一の安全は、ただわたしたちの手を彼の手にあずけ、完全な信頼に満たされた心で、キリストと共に歩むことにある。このお方ばそれを望まないなら、わたしの保護にたよって、わたしと和らぎをなせ、わたしと和らぎをなせ」と仰せにならなかったであろうか(イザヤ 27:5)。救い主のそば近くにしよう。このお方の柔和によって満たされ、心低くしてこのお方と歩もう。自己が神のうちにキリストと共に隠されるようにしよう。

自己を自分の偶像とする者がどれほど多くいるかを示されるとき、わたしの心は痛む。キリストは彼らに贖いの値を払われた。力を尽した彼らの奉仕は、このお方にこそ属しているのである。しかし彼らの心は自己愛と自己を飾ることへの欲望によって満たされている。彼らは「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」というみ言葉を考えてみることをしない(マルコ 8:34)。……

最後の審判の日において、苦い落胆がおとずれる人々の中には、外面上宗教的であった人々、見たところではクリスチャンの生涯を生きた人々がいる。しかし彼らがすることすべてに自己が織り込まれている。彼らは自分たちの道徳性、自分たちの感化、他の者たちよりも高い地位に立つことができる自分たちの能力、また自分たちの真理の知識に誇りを置いている。なぜなら彼らはこれらのものがキリストの称賛を自分に得させると考えているからである。彼らは「主よ」、「わたしたちはあなたと一緒に飲み食いしました。また、あなたはわたしたちの大通りで教えてくださいました」と訴える(ルカ 13:26)。「わたしたちはあなたの名によって預言したではありませんか。また、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの力あるわざを行ったではありませんか」(マタイ 7:22)。(手紙 91, 1904 年 2 月 18 日 W.C. ホワイトへ)

このお方のご臨在にある平安

「わたしは主のみわざを思い起す。わたしは、いにしえからのあなたのくすしきみわざを思いだす。わたしは、あなたのすべてのみわざを思い、あなたの力あるみわざを深く思う。」(詩篇 77:11, 12)

大いなることがわたしたちの前にあり、わたしたちは民をその無関心から呼びだし、その日のために用意させたいのである。……わたしたちは今自分の確信を捨て去るべきではなく、かえって堅い確信、すなわちこれまで以上に堅い確信を持つべきである。主は今に至るまでわたしたちを助けられた。そして、このお方は最後までわたしたちを助けられる。わたしたちは記念の柱、すなわち主がわたしたちを慰め、わたしたちを滅ぼす者の手から救うために何をしてくださったかということを思い起こさせるものに目を向ける。わたしたちは、主がわたしたちの目から拭ってくださったすべての涙、このお方が和らげて下さったすべての痛み、除いてくださったすべての心配、払いのけてくださったすべての恐れ、供給してくださったすべての必要、与えて下さったすべての憐れみをわたしたちの記憶に生き生きと保ち、わたしたちの残りの旅路の間、前途にあるすべてのことに対して自らを力づけたいものである。

わたしたちが前方を眺めるとき、来るべき闘争における新たな当惑しか見ることができないが、来るべきことだけではなく過ぎ去ったことを見て「主は今に至るまでわれわれを助けられた」と言うことはよいことである(サムエル記上 7:12)。「あなたの力はあなたの日と共に続くであろう」(申命記 33:25 英語訳)。試練はそれを耐えるために与えられる力を超えることはないのである。

それならば、わたしたちの働きを見出したところで、それに取り掛かりよう。それに相応した力の与えられない試練は何一つおとずれることがないことを考えて、一言も不平を言わずにそうしよう。わたしたちの子供たちは、神のみ手の内にある。わたしたちの信仰は約束をつかむために目覚めなければならない。そしてわたしたちは不平を言わず、悲しまない。なぜなら、そうすることによってわたしたちは神の栄誉を汚すからである。わたしたちは快活で希望に満ちた心を持つよう促さなければならない。わたしたちの今ある平安が、予期されている試練によって動揺させられてはならない。なぜなら神はこのお方に信頼する魂を一人として置き去りにされたり、捨てられたりはなさらないからである。神はわたしたちにとってわたしたちの恐れに勝るお方である。もしわたしたちが、自分たちの受けた憐れみを熱心に覚え、これらを繰り返すよう促すならば、すなわち神がわたしたちのために働かれ、わたしたちの恐れに勝るお方であられた事例や、ひどく困惑したときにこのお方がご自分の力とその恵みを介入してくださったこと、わたしたちが倒れたときに支えてくださったこと、悲しんでいるときに慰めてくださったことを数えるならば、わたしたちは神に信頼しないことや不安でいっぱいになることが不信仰であることを悟るようになる。あわれみを日毎に覚え、味わうようにしよう。わたしたちは日毎に信仰によって生きなければならない。……神にあつていつも喜びなさい。今日、神をこのお方の恵みのゆえに讃美し、毎日このお方を讃美し続けなさい。(手紙 11a, 1884 年 2 月 19 日、ユライヤ・スミス長老と夫人へ)

2月20日

幼子さえも自らを示す

「幼な子でさえも、その行いによって自らを示し、そのすることの清いか正しいかを現す。」(箴言 20:11)

キリストがまだ子供であられたとき、ヨセフとこのお方の母親は、このお方が宮の中において学者たちの間で彼らに聞き入り、質問しておられるのを見つけた。ご自分の質問によってこのお方は彼らの思いへ大いなる光を投げられた。このエルサレムへの訪問においてこのお方はご自身が確かに神の御子であり、ご自分の前に特別な働きが置かれていることを悟られた。

ご自分の母親が「どうしてこんな事をしてくれたのです。ごらんなさい、おとう様もわたしも心配して、あなたを捜していたのです」と言ったとき、このお方は「どうしてお捜しになったのですか」と答えられた。そしてこのお方の顔から神性の光が輝き出て、このお方は最も厳肅な様子で「わたしが自分の父の家にいるはずのことを、ご存じなかったのですか」と言われた(ルカ 2:48, 49)。そしてその後このお方はナザレにお帰りになり、ご自分の両親の下におられたが、このお方はご自分の将来の働きの理解—ご自分が失われたものを救うために働かなければならないという認識を失われなかった。このお方はサタンがわずかでも利益を得ることがないように、ご自分がすべての機能を忠実に見張り続けなければならないことを知っておられた。

このお方は御父の代理として人々の間に住むことができるように、ご自分のすべての行動において神の御子であられねばならなかった。このお方の働きは他の者たちを神の子供とすることであり、粉にパン種を投げ入れる機会を失ってはならなかった。それは他の青年たちや熟年の者たちが、知的に神の共労者にふさわしい者となることを怠ることは安全ではないということを理解できるためであった。このお方はご自分の人類同胞に、彼らの能力の及ぶかぎり働くように教える必要がなければならなかった。それは自分たちがいつかそうなりたいと思う者になることができるためであった。

キリストはご自分の兄弟たちに誤解された。なぜならこのお方は彼らのようではなかったからである。このお方はご自分がご覧になった苦しみのすべての状況を取り除くために働かれ、いつも成功なさった。このお方は与えるためのお金は少ししかなかったが、しばしばご自分のわずかな食物をご自分よりも生活に困っていると思われた者たちにお与えになった。キリストの兄弟たちはこのお方の影響が自分たちの影響をはるかにしのいでそれらを無にしていると感じた。なぜなら彼らが貧しい者たちに荒々しく語り、彼らが接触した魂をみじめにさせたとき、キリストはこれらの者たちを捜し求められ、彼らに励ましの言葉を語られたからである。もし家族の輪においてこのお方がもはや何もおできにならないときがあれば、このお方はできるだけ静かに、そして秘かにご自分が助けようとされていた哀れな者たちに、冷たい水一杯をお与えになり、そしてご自分の食事を彼らの手に置かれるのであった。(原稿 22, 1898 年 2 月 20 日、「偉大な宣教師キリスト」)

このお方の力のうちにあって強い

「だから、あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて、その情欲に従わせることをせず、」(ローマ 6:12)

つねにイエスに学ぶ者となり、つねに信仰を増し加え、恵みと真理の知識において成長しなさい。わたしたちは偉大な働きをしているのであり、主がわたしたちの助け主、主がわたしたちの盾であられる。このお方はわたしたちを置き去りになさることも、お捨てになることもない。神の御使が世への警告のメッセージを宣べ伝えるこの働きに携わっている。わたしたちは自分自身では何もできない。主の霊がおられなければ、わたしたちは水のように弱いのである。わたしたちの力はイエスのうちに隠されていることにある。キリストがことごとく麗しく、万人にぬきでたお方として表れるようにしよう。

もう一度わたしは神があなたに与えられた住居を大事に扱うように勧告する。罪があなたの死すべき体のうちに支配し、神があなたに与えられた肉体的力を浪費することがないようにし、あなたの全信頼を完全な救い主に置くことにより、あなたの力を大切にしよう。このお方はあなたが勝利者となり最後に宝石をちりばめた冠をかぶってほしいと思われる。

天国、すばらしい天国は聖徒の永遠の家である。わたしたちはやがて休むのである。それならばわたしたちの力を乱用することなく、神がそれを増加され、聖化され、最高の奉仕に用いられるように使おう。主があなたにとても近く来られ、……あなたにサタンの誤りと迷信と働きとを打ち破るために強い感化を与えてくださるように。

わたしたちは神に偉大なことを求めることができるのであり、このお方はそれらをわたしたちにお与えになる。わたしたちはこのお方の力のうちに強くなるのである。あなたが聖書の宗教の標準に従って生活し、それを他の者たちに示すとき、聖職者から反対を受けるであろう。軽蔑と嘲笑、悪口と偽りがあなたの後を追うであろう。あなたの動機、あなたの言葉、あなたの行動は誤解され、誤り伝えられ、非難されるのである。しかし、もしあなたが自分に与えられた虐待にかかわりなく働きをやり通し、もしあなたが正しいことを行い、親切で忍耐深く、へりくだった精神で、神にあって幸福ならば、あなたは感化を及ぼすであろう。あなたは正直で良心的なすべての者から同情を受けるのである。

命のみ言葉を差し出しなさい。反対の嵐はそれ自体の憤りで消耗し、静まる。騒ぎは次第に静まるのである。……真理の調和は、正直で神を畏れる者によって見られ、感じられ、従われるのである。(手紙 16, 1879 年 2 月 21 日、デンマークにおいての牧師の先駆者 J.G. マトソン長老へ)

2月22日

どこへでも、主よ

「わたしは乏しいから、こう言うのではない。わたしは、どんな境遇にあっても、足ることを学んだ。」(ピリピ 4:11)

わたしの健康状態に変わりがないので、わたしの痛みや夜の眠れぬ数時間について述べることは最善ではないという考えがわたしの心に印象づけられた。このように来る日も来る日も、わたしの経験は同じであった。わたしは体中がリウマチで痛い。わたしは食欲がないし、また食べることに何の喜びも感じない。そして短時間座っていると、立ち上がることが最もつらい行為である。わたしの手足はわたしの意志に従うことを拒み、わたしがいくら動かすともわたしは非常に痛みを感じる。

わたしは、自分が主によってこの国〔オーストラリア〕に送られたのではないという思いが大いにしている。わたしは時々、カルフォルニアにある自分の家に留まって、キリストの生涯について書ける限り書くことが、確かに主のみ旨であったと痛感する。一つわたしにはっきりしていることがある—この国にいる人々が助けを必要としているということである。そしてわたしはオーストラリアに行くことを拒否するのはわたしのうちにある利己心、もしくはわたしの安楽を求めることなのではないかと恐れたのであった。

わたしは自分の生涯のあいだずっと、自分の意向に反したことをするよう努力してきた。なぜならわたしたちの模範であられるキリストはご自分を喜ばすため生きられなかったからである。これまで繰り返し多額な出費をして、キリストのご生涯について書くことができるような引退後休息のための場所を確保したと思ったとき、助けを必要としているどこかからの熱心な呼びかけが来て、わたしに諸教会の間で証を担ってほしいとの依頼が来たのであった。わたしは断わるようなことはしなかった。わたしは直ちに、神から与えられた力によって承諾した。わたしの力がなくなってこの働きが終わった後、わたしはバトル・クリークにおける他の義務に召されて、日夜重荷を担い、またわたしが眠れなかった夜には多くの時間を祈りに過ごしたのであった。

わたしがカルフォルニアへ旅したとき、わたしは冬の間そこに留まることができると確信したが、多くの者たちが今こそオーストラリアに行く時だという意見を表明した。わたしはあえて定住しようとはせず、わたしの兄弟たちの発言と光に従って出発した。オーストラリアにきた今、重荷はわたしの上に置かれ、わたしは今まで行ってきたように働いたのである。(原稿 29, 1892 年 2 月 22 日オーストラリアのメルボルンにおいて書かれた日記)

恐れることはなにもない

「弟子たちを力づけ、信仰を持ちつづけるようにと奨励し、『わたしたちが神の国にはいるのには、多くの苦難を経なければならない』と語った。」(使徒行伝 14:22)

神はわたしたちにご自分に信頼し、そのいつくしみ深さを味わうようにと本気で仰せになっているのである。このお方は毎日にわたしたちの前にご自分の慈愛を提示しておられ、わたしたちにはこれらのことを把握する目と洞察力がなくてはならない。わたしたちが悪からの完全で完璧な救出がいかに偉大で栄光に満ちたものであるかを悟るのは天においてであるが、しかし、すべてが最終的な救出の時までとっておかれるべきではない。神はそれをわたしたちの現在の生涯にもたらされる。わたしたちは日毎にいと近き救い主を信じる信仰を培う必要がある。わたしたちを超越した外からの力に信頼することによって、また困窮し頼る人々の要求にこたえようと待っている見えざる支えと力を信じる信仰を働かせることによって、わたしたちは雲の中でも日光の中でも、今の救出や今のこのお方の愛の喜びを讚美しながら、信頼することができる。わたしたちが今生きている生涯は、神のみ子を信じる信仰によるものでなければならない。

クリスチャンの生涯は不思議なほどに悲しみと喜び、落胆と望み、恐れと確信の光景が入り混じっている。彼は自分自身の心があまりにも深くかき乱され、目の前にあることを何でも心に抱いて強い感情が沸き起こるのを見るとき、自己に対して大いに不満を覚える。そしてその後、後悔と悲しみと悔い改めが起り、これらに平安と深く隠された喜びが続くのである。なぜなら彼は、自分の信仰が神のみ言葉の中に啓示されている約束をつかむとき、自分が長く耐え忍ばれる救い主の許しの愛を持つのだということを知っているからである。そしてその救い主を、彼は自分の生活に引き入れ、彼の品性に織り込もうと求めるのである。

魂を謙遜にし、感謝のうちに「生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである」と叫ぶように導くのは、これらの啓示、すなわち神のいつくしみ深さをこのように発見するときである(ガラテヤ 2:20)。わたしたちは慰められる理由がある。厳しい外部の試練が、イエスの住まわれる魂の周りに押し寄せてくるかもしれない。このお方のみ言葉の中にこのお方が用意してくださった慰めに頼ろう。下の望みと慰めの泉はわたしたちを失望させるように見えるかもしれないが、神の川に水を送り込む上の泉には豊かな供給があり、決して干上がることはないのである。神はあなたが自分の苦悩の原因から目を転じ、魂、体、霊の所有主であられるお方へと向けるように望んでおられる。このお方は魂を愛されるお方である。このお方は魂の価値を知っておられる。このお方がまことのぶどうの木であり、わたしたちはその枝である。わたしたちは魂の命であられるイエスから受けるのでなければ、霊的な栄養を受けることはない。(手紙 10, 1887 年 2 月 23 日 J.H. ケログ博士へ)

どのように罪を取り除くか

「悪しき者はその道を捨て、正しからぬ人はその思いを捨てて、主に帰れ。そうすれば、主は彼にあわれみを施される。われわれの神に帰れ、主は豊かにゆるしを与えられる。」（イザヤ 55:7）

わたしの親愛なる姉妹、わたしには神があなたを愛しておられるという証拠がある。そして、あなたが救われるようにとあなたのためにご自身をお与えになった尊い救い主は、あなたが誘惑され、その弱さのうちに打ち負かされてしまうかもしれないからといって、あなたをご自分から押し戻すようなことはなさらないという証拠を持っている。……

さあ、親愛なるイエスのみ腕から出て自分で心配することをせず、信仰によって信頼し横たわりなさい。このお方はあなたを愛しておられ、あなたを心にかけてくださる。このお方はあなたを祝福しておられ、あなたにご自分の平安と恵みをお与えになるのである。このお方は「あなたの罪はゆるされた」と仰せになっている（ルカ 5:23）。……わたしたちが過ちを犯し、だまされて罪を犯すにもかかわらず、イエスはわたしたちを愛されると、わたしはあなたに申し上げる。このお方はわたしたちを許される。このお方は赦されるのであり、しかも豊かに赦されるのである。神のすばらしい約束をあなたの魂に集めなさい。……

あなたの惨めさからキリストの完全へと目を向けなさい。わたしたちは自分たち自身で義を造りだすことはできない。キリストはご自分のみ手に義の純潔な衣を持っておられ、このお方はわたしたちの上にそれを着せられる。このお方は許しと約束の素晴らしい御言葉を語られる。そしてこのお方は渇いた魂にそれによってわたしたちが回復するようにと生ける水の泉を示される。このお方はわたしたちにそのすべての重荷とそのすべての悲しみをもって、ご自分の許に来るようにとお命じになる。そうすればわたしたちは休みを見出すであろうと仰せになるのである。であるから、わたしたちはこのお方が許しを語られることを信じなければならない。そして、このお方の愛に安んじることによって、わたしたちの信仰を表さなければならない。……

この罪悪感カルバリーの十字架のもとに置かれなければならない。この罪深さという感覚は命と真の幸福の泉を毒で汚した。今、イエスは「それをみなわたしの上に置きなさい。わたしはあなたの罪を取り除き、あなたに平安を与える。あなたの自尊心をこれ以上台無しにしてはならない。なぜならわたしはあなたをわたしの血の価で買い取ったからだ。あなたはわたしのもの、あなたの弱った意志をわたしは強める。あなたの罪への自責の念をわたしは取り除く」と仰せになる。そうであれば、不安にわなないているあなたの心を感謝に変えて、あなたの前に置かれた望みをつかみなさい。神はあなたの砕けた悔いた心を受け入れられる。このお方はあなたに無償の許しを提供しておられる。このお方はあなたの弱さを助ける恵みをもって、あなたを養子としてご自分の家族に迎え入れると申し出ておられる。そして、もしあなたがただ自分の手をこのお方の手においてこのお方に導いていただくならば、親愛なるイエスはあなたを一步一步導かれるのである。

神の尊いみ約束を探り求めなさい。もしサタンがあなたの思いに脅しをつきつけても、それらに背を向けて、約束にすがりなさい。（手紙 38, 1887年2月24日、「わたしの親愛なる姉妹」へ）

信頼し服従する

「主はこう言われる、『おおそ人を頼みとし肉なる者を自分の腕とし……ている人は、のろわれる。』……おおそ主にたより、主を頼みとする人はさいわいである。」
(エレミヤ 17:5-7)

キリストの時代のユダヤ人たちのように、今日多くの者たちは聞いて信じるが、服従という土台に上り、イエスのうちにあるがままの真理を受け入れようとしない。彼らは世俗の利益を失うことを恐れているのである。彼らの思いは真理に同意してはいるが、服従するということは、自己否定と犠牲の十字架を掲げることと、また人を頼みとし肉なるものを自分たちの腕とすることを止めることを意味するので、彼らは十字架に背を向けるのである。彼らはイエスの足元に座り、正しく知ることが永遠の命であるこのお方に、日毎に学ぶことができるはずであるが、彼らはそうしたくないのである。

すべて救われている者は、自己に栄光を帰すことを意味する自分の計画、自分の野心的企てを放棄し、キリストが導いている道に従わなければならない。理解力は、キリストに清めていただき、また洗練し、汚れを取り除いていただくために、このお方に明け渡されなければならない。これは主イエスの教えが正しく受け入れられたときにいつもなされることである。神が魂の必要に応じて明らかにしてくださる神の恵みのすばらしい物語が、その豊かな愛をもって提示されるときでさえ、自己にとって日々死ぬことは難しいことである。

ああ、わたしたちはどれほどずっと主イエス・キリストとの密接な関係を必要としていることであろう。わたしたちは「主よ、わたしに何をおさせになるのですか」と心から言いながら、このお方のみ心のうちに入り、このお方のご目的を実行する必要がある。ああ、わたしは自分たちの教会が今ある状態—彼らのなまぬるい宗教生活、冷たくも熱くもない生活によって日々聖霊を悲しませている状態—とは異なる状態にいることを見たいとどんなに願うことだろう。キリストは「むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。このように、熱くもなく、冷たくもなく、なまぬるいので、あなたを口から吐き出そう」と仰せになる（黙示録 3:15, 16）。

ああ、もしキリストに従う者たちが自分の公言しているところのもの—真のクリスチャン—であるならば、どれほどキリストが無宗教の世俗の男女の前で大いに誉れを受け、栄光を受けられることであろう。すなわちキリストの愛が、偶像礼拝の世の前にこのお方を知らしめ、神に仕える者とこのお方に仕えない者たちの間の著しい対照を示すならば。……わたしたちは他の者たちにキリストの愛を語らなければならない。そしてこれをするためには、わたしたちは経験によってこの愛を心のうちに持つとは何を意味しているかということを知らなければならない。もし自分たちにおとずれる機会を活用するならば、すべての者が働くための豊かな機会を見出すであろう。（手紙 35, 1903 年 2 月 25 日、忠実な同労者、また長年の間バトル・クリーク療養所において看護婦長であった L.M. ホール姉妹へ）

聖化の秘訣

『『やみの中から光が照りいでよ』と仰せになった神は、キリストの顔に輝く神の栄光の知識を明らかにするために、わたしたちの心を照して下さったのである。』（コリント第二 4:6）

キリストはわたしたちにイエス・キリストのみ顔に見られる神の光を反射することによって、世にあって光として輝くように命じられた。わたしたちのうちだれがこれを行っているだろうか。わたしたちの生活すべてはこの驚くべき光によって輝いているだろうか。神はわたしたちの一人ひとりがこのお方のかたちを世に反射するように求めておられる。わたしたちは一步一步前進するように導かれてきた。わたしたちは信仰によって歩み、働いた。そしてわたしたちはイエス・キリストの良い兵卒として苦しみに耐えるように自らを訓練する必要がある。

わたしたちはたやすく落胆しない善良で強い思いを必要としている。すなわちわたしたちが直面する困難に取り組み、難しい問題と格闘し、克服するよう教育された思いである。わたしたちは真理の標準をわたしたちの周りにある町や都市で掲げなくてはならない。わたしたちは何がなされなければならないかを見、それを神の愛と畏れのうちにささなければならない。わたしたちが信仰によって行けるところまで行ったとき、主はわたしたちのために請け負ってくださる。この働きを始めるようにわたしたちを鼓舞されたのは神である。わたしたちは一步一步、祈りながら、信じながら、働きながら前進したのである。神はわたしたちの信仰の創始者であり、わたしたち各自が自分の個々の持ち場を果たすとき、このお方は働きを完全なものとされ、それを完成されることにおいてご自分のみ名に栄光を帰せられるのである。主はご自分の献身した働き人たちが、自分たちの見ることに従って働くのではなく、主がご覧になることに従って働くようにと靈感をお与えになる。

わたしたちは自分の魂を、信仰の双子の姉妹である希望によって力づける必要がある。神の働き人たちは神のみ旨への完全な服従のうちに生きなければならない。神と食い違って働く危険がある。なぜなら人は神のご目的を成し遂げるために最善の方法だと思っている自分の方法で働きたがるからである。しかしわたしたちは自分自身のやり方と意志を持つことはできない。神がわたしたちのうちに、わたしたちによって、わたしたちを通して働かれなければならない。わたしたちは陶器師の手にある粘土のように、神のみ手の内にあるべきである。それはこのお方に神に似たすがたにかたどって形成していただくためである。

わたしたちの心はあますことなく神へと聖化される必要がある。わたしたちが自分たちの方法と意志を保ち続けようとしないようにしよう。神は人全体を清め、精錬し、高尚にするようにわたしたちにご自分の真理をお与えになった。このお方はあなたに関する「神のみこころは、あなたがたが清くなることである」と仰せになった（テサロニケ第一 4:3）。「いのちと信心とにかかわるすべてのことは、主イエスの神聖な力によって、わたしたちに与えられている。それは、ご自身の栄光と徳とによって、わたしたちを召されたかたを知る知識によるのである」（ペテロ第二 1:3）。（原稿 70, 1899 年 2 月 26 日、「神との共労者」）

正しく考える

「それだから、心の腰に帯を締め、身を慎み、イエス・キリストの現れる時に与えられる恵みを、いささかも疑わずに待ち望んでいなさい。」(ペテロ第一 1:13)

考えは訓練されなければならない。正しい方向で、よく整った計画の秩序にしたがって働くように、思いの腰に帯を締めなさい。そうすれば、一步一步が前進するものとなり、努力や時間が、あいまいな考えや行き当たりばったりの計画に従ったために失われてしまうようなことはない。わたしたちは生涯の目標と目的を考慮し、価値のある目的をつねに視野に入れていなければならない。毎日考えは訓練され、磁石の針が極を指すように目的からはずれないように保たなければならない。各自は自分の目標と目的を持つべきである。そしてすべての考えと行動を、自分が目的としていることを達成するような性質のものにしなければならない。考えは制御されなければならない。あなたが着手することを実行するためには目的の不変性がなければならない。

あなた以外にだれもあなたの考えを制御することはできない。最も高い標準に届くために奮闘する際、成功か失敗かは、考えが訓練されている性質と方法に多く依存している。もし、神が毎日そうするようにとお命じになったとおりに、考えにしっかりと帯が締められているならば、それらはわたしたちがもっと大きな献身をする助けとなるような主題を考えるようになる。もし考えが正しいなら、結果として言葉が正しくなる。行動は魂に喜びと慰めと休みをもたらす性格のものとなる。……

思慮深く考慮せずに行動する者たちは、分別なく行動する。彼らは気紛れな努力をし、あちこちへ突き進み、あれこれとつかむが、みな無益である。彼らはぶどうの木に良く似ている。訓練されず、あらゆる方向に伸び放題にされたつるは、届く範囲にあるどんながらくたにもしがみつくのである。しかしぶどうの木が益になるためには、つるはそれがつかんだものから離され、それを優美で整ったものとするものに絡まるように訓練されなければならない。……

絶えず学ぶ生徒によって、新しい光、新しい考え、真理の新しい宝石が探し出され、彼らはそれらを熱心につかむ。彼は考える。思いの法則は彼に考えることを要求する。人の知力は重荷を負わせられることによって拡大し、活力と鋭さを得る。思いは働かなければならない。さもないと衰えるのである。それは考えるための新たな主題がない限り、餓死してしまうのである。それが熱心に考えるようにされない限り、確実に考える力を失うのである。(手紙 33, 1886 年 2 月 27 日、ヨーロッパで働いている牧師へ)

羊飼いのもつて

「主は牧者のようにその群れを養い、そのかいなに小羊をいだし、そのふところに入れて携えゆき、乳を飲ませているものをやさしく導かれる。」（イザヤ 40:11）

目で見ることのできる創造のうちに、神の知恵が尽きることのない多様な作用によって明らかにされている。一様性は自然という王国において従われている法則ではない。それは恵みの王国において従われている法則でもない。神は多くの方法によって一つの目的―魂の救済―を達成するために働かれる。様々な方法によって、恵み深い贖い主は、様々な思いを扱われる。心の変化が、ある一つの作用によって起こるのが真実であるのとまったく同様に、他の作用によっても起こるのである。思いに働きかけられ、品性を形成されるのは主である。

すべての者は厳密に同じ方法によって、主に導かれているのではない。人間は神の思いへの働きの性格を勝手に狭く定義を下すべきではない。ある者はたやすく霊的力と識別力を手に入れられるよう授かるかもしれないが、その一方で他の者は「肉体のとげ」と戦わなくてはならず、時には一見、絶壁の高さから足を踏み外さんばかりに思えるときもある（コリント第二 12:7）。しかし、だれが、痛々しいまでに悩まされている者を神がもはや愛してはおらず、ご自分の子としてご覧になってはいないと言えるであろうか。またこのお方のみ手がもはや救うために伸ばされてはいないと言えるであろうか。

天来の羊飼いは群れからはぐれた小羊をどこで見つけるかご存知である。このお方は彼らを寄せ集められる。このお方は牧師と一般信徒に自分たちの義務を自覚し、またこの働きにおいてこのお方と一致するように求めておられる。失われた者をたずねだして救うことはクリスチャンの特別な義務である。牧師と一般信徒は誘惑によって激しく悩まされ、どの道へ向かうべきか分からずにいる者たちを励まし助けるべきである。わが兄弟よ、神の恵みを通してあなたはさまよっている者たちを群れへ連れ戻すことができる者になれる。

神がバアルにひぎをかかめることをしなかった七千人をもつておられたエリヤの時代のように、今日もこのお方はこの世に彼らが受けたすべての光のうちに歩んでいる多くの者を持っておられる。これから暗闇の中で輝き出るべき選ばれた者たちという大空をそっくり取っておかれる。いばらととげしか期待されていないかもしれないところで、実を結ばせる義の木が現れるのである。そのような場所では、もっと恵まれている場所に生きている多くの者たちよりも、主のためにもっとすばらしく花を咲かせる者たちがいるのである。彼らが最も見込みのない場所で花を咲かせながら、このお方のめぐみの香りを放つのである。（手紙 39, 1903 年 2 月 28 日 J. ウェッセルズへ）

研究 2

清めの特別な働き



聖所、罪人に示されたもの

「いつくしみと、まこととは共に会い」

—キリストの犠牲によって—

人類の救い主キリストの働きの中心そのものが、「天の聖所」であることを、先月学びました（各時代の大争闘下巻 222）。ですから、「天の聖所における奉仕の正しい理解が、わたしたちの信仰の基礎」でなければなりません。（手紙 208（1906 年））。

わたしたちがキリストのこの働きにあずかるために、証の書に特に理解すべき点が挙げられていました。

「聖所と調査審判の問題は、神の民によってはっきりと理解されねばならない。すべての者は、自分たちの大いなる大祭司キリストの立場と働きについて、自分で知っている必要がある。」（各時代の大争闘下巻 222）

「天で調査審判が行なわれ、悔い改めた罪人の罪が聖所から除かれているその間に、地上の神の民の間では、清めの特別な働き、すなわち罪の除去が行なわれなければならない。この働きは、黙示録 14 章のメッセージの中にさらに明瞭に示されている」（各時代の大争闘下巻 141）。

ここに、次の 4 つの点に焦点が当てられています。

聖所、罪人に示されたもの（創世記から黙示録まで）

大贖罪の日における大祭司の立場と働き（聖所の清めと民の清め レビ記 16 章と 23 章）

清めの特別な働き、罪の除去が地上の民の間で行われなければならない（レビ記 23 章、民数記 29:7-11 参照）

このメッセージは黙示録 14 章の中でさらに明瞭に示されている

そして、今日は、「聖所、罪人に示されたもの」から学びを進めていきます。

この聖所は創世記から黙示録まで、救いを必要としている罪人に示されてきました。

1. 聖所、罪人に示されたもの

「主なる神は……皮の着物を造って、彼らに着せられた」（創世記 3:21）。

ここに聖所の始まりを見ることができます。

「神の栄光」（ローマ 3:23）の衣を失った人類に、キリストは「衣」を用意し、着せてくださいましたが、それは命という代価によって造られた「皮の着物」でした。つまり、祭壇に捧げられる犠牲がなければ、罪人を覆う義の衣は存在しえないのです。

「罪のための贖罪としてのキリストの犠牲は、まわりに他のすべての真理が房になってついている大真理である。神のみ言葉の中にある創世記から黙示録までのすべての真理は、正しく理解し評価するために、カルバリーの十字架から流れる光のうちに研究しなければならない」（福音宣伝者 315）。

「キリストとその義—これがわたしたちの土台、わたしたちの信仰の命そのものとなるようにしよう」（レビュー・アンド・ヘラルド 1905 年 8 月 31 日）。

皮の着物を着せていただいたことは、罪人にとって聖所の奉仕の始まりでした。キリストは許された罪人にご自分の義の衣を着せた後、彼らの来ることができるところにご自分のご臨在を置いてくださいました。神とお会いするところ、そこが聖所です。こうして皮の衣を着た彼らは、新しく神との交わりに入ることができたのです。

「エデンの園の東に、ケルビム……を置いて」（創世記 3:24）。

「その所でわたしはあなたに会い、贖罪所の上から、あかしの箱の上にある二つのケルビムの間から、イスラエルの人々のために、わたしが命じようとするもろもろの事を、あなたに語るであろう」（出エジプト記 25:19-22）。

「贖罪所の上にはシェキナー、すなわち神聖なご臨在の現れがあった。そしてケルビムの間から神はご自分のみ旨を知らされた」（レビュー・アンド・ヘラルド 1905 年 11 月 9 日）。

「ケルビムが守っていた楽園の門には、神の栄光があらわれていた。アダムと

その子らは、ここに来て神を礼拝した。かつて、神の律法を犯したためにエデンから追放された彼らは、ここで神の律法に従う誓いを新たにした。……しかし万物が回復されて、「新しい天と新しい地」が出現するとき（黙示録 21:1）、それは、はじめのときよりもっと輝かしく飾られて回復されるのである」（人類のあけぼの上巻 52）

アダムとその子らは、このエデンの園の東に設けられた聖所—ケルビムの間から神が彼らに会い、語って下さる神の栄光のある場所—で神と交わり、その交わりは受け継がれていきました。

「アダムは千年近くも人々の間に生きて、罪の結果を目撃した。彼は、悪の潮流をせきとめようと忠実に努力した。彼は、主の道に従って、彼の子孫を教えるように命じられていた。それで彼は、神から受けた啓示を注意深く心にたくわえて、それを世代から世代へくり返し伝えた。彼は、楽園の清く幸福な状態を描写し、彼の墮落した経過をくり返し、苦難によって神の律法に厳格に服従する必要を神から教えられたことを告げ、そして、彼らの救いのために設けられたあわれみ深い用意について、九代におよぶ子々孫々に説明した」（人類のあけぼの上巻 77）。

「アベルもまた、その群れのういごと肥えたものを持ってきた。主はアベルとその供え物とを顧みられた」（創世記 4:4）。

「ノアは主に祭壇を築いて」（創世記 8:20）。

「アブラムは……主のために、そこに祭壇を築いた」（創世記 12:7）。

そして、イスラエルの民が神に礼拝するために、エジプトから救出されたとき、キリストの奉仕をもっと詳しく教える地上の聖所が与えられました。

「また、彼らにわたしのために聖所を造らせなさい。……すべてあなた（モーセ）に示す幕屋の型および、そのもろもろの器の型に従って、これを造らなければならない。……」（出エジプト記 25:8, 9）。

「彼らは、天にある聖所のひな型（コピー）と影とに仕えている者にすぎない。それについては、モーセが幕屋を建てようとしたとき、御告げを受け、「山で示された型どおりに、注意してそのいっさいを作りなさい」と言われたのである」（ヘブル 8:5）。

「こうして、ほとんどすべての物が、律法に従い、血によってきよめられたのである。血を流すことなしには、罪のゆるしはあり得ない。このように、天にあるもののひな型は、これらのものできよめられる必要があるが、天にあるものは、これらより更にすぐれたいけにえで、きよめられねばならない。ところが、キリストは、ほんとうのものの模型にすぎない、手で造った聖所にはいらなくて、上なる天にはいり、今やわたしたちのために神のみまえに出て下さったのである。……もしそうだとすれば、世の初めから、たびたび苦難を受けねばならなかったであろう。しかし事実、ご自身をいけにえとしてささげて罪を取り除くために、世の終りに、一度だけ現れたのである」(ヘブル 9:22-26)。

この地上の聖所は、キリストの奉仕を教える忠実な写しでした。その聖所において、罪の許しを得させるキリストの血は祭壇で流されましたが、庭で流されたこの血は聖所の中に携え入れられ、一番奥の至聖所にある贖罪所の上と前に注がれたのでした。

「また民のための罪祭のやぎをほふり、その血を垂幕の内に携え入り、その血をかの雄牛の血のように、贖罪所の上と(贖罪の場所)、贖罪所の前に(恵みの御座)注ぎ」(レビ記 16:15)。

「その所でわたしはあなたに会い、贖罪所の上から、あかしの箱の上にある二つのケルビムの間から、イスラエルの人々のために、わたしが命じようとするもろもろの事を、あなたに語るであろう」(出エジプト記 25:22)。

その血が注がれた贖罪所の中には神の律法があり、その贖罪所の上は恵み(憐れみ)の御座でした。

「義(Justice)と公平はあなたのみくらの基、いつくしみ(Mercy)と、まこととはあなたの前に行きます」(詩篇 89:14)。

「いつくしみと、まこととは共に会い、義と平和とは互に口づけし」(詩篇 85:10)。

「正義(Justice)と憐れみ(Mercy)は、互いに反対側に、遠く離れて立ち、広い深淵によって分かれていた。主なるわたしたちの贖い主は、ご自分の神性に人性をまとわれ、人のためにしみもぎずもない品性を築かれた。このお方は天地の真ん中にご自分の十字架を据えられ、それを両方に届く魅力の対象とされ、深淵を超えて正義と憐れみの両方を引き寄せた。……

そこでそれは神に等しいお方があらゆる不正と罪のための刑罰を負っておられ

るのを見た。完全に満足して、正義は十字架の下で敬神のうちに頭を垂れ、これで十分であると言った」(神のむすこ娘たち 243)。

「わたしたちは主が喜んでご自分の民のためになそうとしておられることの半分も自覚していない。……神がご自分の聖徒たちに知らせてくださる奥義の理解を求めて、わたしたちの嘆願が、信仰と悔悟と混ぜ合わされて神のみ許へのぼるべきである。……御使たちの筆は、明らかにされた贖いの計画の栄光をことごとく描写することはできなかった。聖書はキリストがどのようにわたしたちの罪を負い、わたしたちの悲しみを担われたかを述べている。ここで、どのようにいつくしみ(憐れみ)とまこと(真理)がカルバリーの十字架で共に会い、どのように義と平和が互いに口づけし、どのようにキリストの義が墮落した人類に与えられることができるかが明らかにされている。

ここに無限の知恵、無限の正義、無限の憐れみ、そして無限の愛が表された。あらゆる知識を超えた愛と知恵の深さ、高さ、長さ、広さが救いの計画において知らされている」(彼を知るために 10)。

「すべての聖徒と共に、その広さ、長さ、高さ、深さを理解することができ、また人知をはるかに越えたキリストの愛を知って、神に満ちているもののすべてをもって、あなたがたが満たされるように、と祈る」(エペソ 3:18, 19)。

「箱におさめられた神の律法は、義と審判の大原則であった。この律法は違反者に死を宣告した。だが、律法の上には贖罪所があり、その上に神の臨在があらわれ、また、そこから、贖罪によって、悔い改めた罪人に対してゆるしが与えられた。こうしてわれわれの贖いのためのキリストのみわざが、聖所の奉仕のなかで象徴され、「いつくしみと、まこととは共に会い、義と平和とは互に口づけ」したのである(詩篇 85:10)。

幕屋の内部の光景の輝かしさは、どんな言葉をもってしても描写することができない。一金の燭台の光を反射する金張りの壁、きらびやかにししゅうした、天使の浮き出たれ幕のまばゆい色合い、金色に輝く机と香の祭壇、そして第二のとぼりのむこうには、聖なる箱と神秘的なケルビム、その上方の主の臨在が目に見える形であらわされる、聖なるシェキーナー。だが、このすべては人間の贖いのわざの中核である、天にある神の神殿の栄光をおぼろげに反映するものにすぎない」(人類のあけぼの上巻 411)。

「神の住居である天の宮において、そのみ座は、義と公正に基づいている。至聖所には、正義の規準である神の律法があつて、全人類がそれによって審査されるのである。律法の板を入れた箱は、贖罪所で覆われていて、その前でキリストは、ご自分の血によって罪人のためにとりなしをなさる。こうして、人類の贖い

の計画における、義といつくしみの結合が表わされている。この結合は、無限の知恵のおかたのみが考案し、無限の力のおかたのみが成し遂げることができた。この結合は、全天を、驚異と賛美で満たすものである。うやうやしく贖罪所を見おろしている、地上の聖所のケルビムは、贖罪の業に対する天の軍勢の深い関心を表わしている。これは、天使たちもうかがい見たいと願っている、あわれみの神秘である。すなわち、悔い改めた罪人を義とし、墮落した人類との交わりを回復するとともに、神自らが義となられること、また、キリストが、ご自分の身を低めて、無数の群衆を滅びの淵から引き上げ、彼ご自身の義の汚れない衣を着せて、彼らを墮落しなかった天使たちとの交わりに入れ、神の前に永遠に住まわせられること、このことである」(各時代の大争闘下巻 127, 128)。

「神の愛は、あわれみのうちにばかりでなく義のうちにあらわされた。義は神のみ座の基礎であり、神の愛の実である。……一方がなければ他方は存在し得ない……。『いつくしみと、まこととは共に会い、義と平和とは互に口づけ』する(詩篇 85:10)。

キリストは、ご自分の一生と死によって、神の義はそのあわれみを滅ぼすものではなく、罪がゆるされ、律法が正しく完全に従うことのできるものであることを証明された。サタンの非難の誤りは明らかにされた。神はご自分の愛についてまちがうことのない証拠を人類にお与えになった」(各時代の希望下巻 289)。

「このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている」(ローマ 5:1)。

「だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく恵みの御座に近づこうではないか」(ヘブル 4:15, 16)。

御使たちもうかがい見たいと願っている憐れみの神秘が世のはじめからつぶさに表されているのが聖所でした。そして、神から罪人を隔てていた罪の深淵をなくし、人類の贖いの計画における義といつくしみの結合を成し遂げるキリストの血は、祭壇で流されただけでなく、至聖所の贖罪所に塗られることによって、その働きが完成されるのでした。

今回は、地上の聖所から天の聖所を見いだした真理を学びます。

ければなりませんでした。

サタンは人にほしいままにするように誘惑します。なぜならこれは体を弱くし思いを曇らせるからです。そのとき彼はもっとたやすく彼らを惑わし、滅ぼすことができることを知っているのです。

しかし、キリストの模範は、すべてのわるい願望は克服しなければならぬことを教えています。わたしたちの食欲がわたしたちを支配してはならないのです。わたしたちがそれらを支配しなければなりません。

サタンがはじめにキリストにすがたを現したとき、彼は光の天使のようにみえました。彼は天からの使者であると主張しました。

彼はイエスさまに、この苦しみに耐えることはこのお方のみ父の御旨ではない、ただ苦しもうとしていることを示すだけでよいのだと言いました。

イエスさまが飢えのするどい痛みと戦っておられたとき、サタンはこのお方に言いました、「もしあなたが神の子であるなら、これらの石がパンになるように命じてごらんなさい」。

しかし、救い主はわたしたちの模範として生きるために来られたのですから、このお方はわたしたちが苦しみに耐えなければならないように、それに耐えなければなりませんでした。このお方はご自分のために奇跡を働いてはならないのです。このお方の奇跡はみな、他の人の益のためになされるのです。サタンの要求に対してこのお方は、『人はパンだけで生きるものではなく神の口から出る一つひとつの言で生きるものである』と書いてある」とお答えになりました。

こうしてこのお方は、自分自身のために食物を供給することは、神さまのみ言葉に従うことより、はるかに重要性におとることを示されました。神のみ言葉に従う人々には、この世の生涯に必要なすべてのものについて約束があり、また将来の生涯についての約束もあります。

フルーツグラノーラ

【材料】

オートミール	2 カップ
小麦胚芽	1 / 2 カップ
塩	小さじ 1 / 4
油	大さじ 2
はちみつ	1 / 4 カップ
刻みナッツ&ドライフルーツ&ココナツ (フレーク) 1 カップ	

【作り方】

1. まずオーブンを 110 度に熱しておく。
 2. ボールにオートミールと小麦胚芽と塩を入れて、混ぜ合わせる。
 3. はちみつと油を加え、よく混ぜる。
 4. よく混ぜたら、鉄板にクッキングシートを広げ、110 度で 30 分焼く。
 5. 30 分たったら、オーブンから取り出し、刻みナッツ&ココナツを入れて、さらに 15 分焼く。
 6. 焼きあがったら、オーブンから出して、ドライフルーツを混ぜる。
- 冷めた後、全体を混ぜて、できあがりです。

あまみを自由に調節して、お気に入りを作ってみて下さい。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

第14話 試み(Ⅰ)

このお方はバプテスマのあと、悪魔に試みられるために、御霊によって荒野へ導かれました。

荒野に行かれるにあたり、キリストは神さまの御霊に導かれたのでした。このお方は試みをまねくことはなさいませんでした。このお方はご自分の使命と働きをよく考えるために一人になることを望まれました。

祈りと断食によってこのお方はご自分がたどらなければならない血みどろの道のために備えられました。しかしサタンは救い主がどこへ行かれたか知っていました。そこで彼はこのお方を誘惑するためにそこへ行きました。

キリストがヨルダンを去られたとき、このお方のみ顔は神さまの栄光でかがやいていました。しかしこのお方が荒野へ入られたあと、この栄光は消え去りました。

この世の罪がこのお方の上であり、そしてこのお方のみ顔には人がかつて感じたことのない苦痛が現れていました。このお方は罪人のために苦しまれたのでした。

アダムとエバはエデンにおいて禁じられた実を食べることによって神さまにそむきました。彼らの不従順は世界に罪と悲しみと死をもたらしました。



キリストは従順の模範を与えるために来られました。荒野で40日間断食された後に、このお方は、食物を得るためにでさえ、ご自分の御父のみ旨から離れようとされないのでした。

わたしたちのはじめの両親を打ち負かした誘惑の一つは、食欲にふけるという誘惑でした。この長い断食によってキリストは、食欲は制御できるものであることを示さな